

2021年、最初の礼拝ですが、今日から新しいことを学びます。今日からは、「子どもと親のカテキズム」について学びます。「カテキズム」とは何？と思われるかと思います。「ウェストミンスター小教理問答」を、よく礼拝で用いていますが、「教理問答」のことを「カテキズム」と言い、キリスト教の基本的な教えのことです。ウェストミンスターでもそうですが、子どもと親のカテキズムでも、問いと答えとなっており、問答形式を取りますので、「教理問答」の方が分かりやすいかも知れません。

カテキズムを学ぶ時、問1は、大切です。だから今日学びます問1は、子どもと親のカテキズムの中でも一番大切な問答です。おそらく毎回、繰り返し確認すると思いますので覚えていただければと思います。

### 子どもと親のカテキズム 一番大切なこと

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

「私たちにとって一番大切なこと」、学校に行くこと、学ぶこと、働くこと、家にいること、どこにおいても、いつでも、一番大切なことは、変わりありません。それが、「神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです」。つまり、教会に来ている時だけ、神さまと出会うのではありません。

「神さまを見たことがない」と語られる人もいるかと思います。しかし、クリスマスの日、イエスさまのお誕生をお祝いしました。そしてイエスさまは、十字架で死を遂げられましたが、甦られ、そして天国に昇って行かれました。この時に、聖霊を遣わして下さいました。だからこそ、私たちは、お祈りすることができます。お祈りが神さまによって聞かれるのは、聖霊が、私たちといつも一緒にいて下さり、イエスさまとの交わりを可能にしてくださっているからです。

だから、教会にいる時だけでなく、家にいても、学校にいても、働いている人は働いている場にあっても、神さまと一緒にいてくださいます。

だからこそ、このカテキズムで語っていることは、教会に来ている時だけ、神さまと出会うことが出来るのではないですよ。いつでもどこでも神さまと一緒にいてくださることを覚えましょう。お祈りしましょう、と語っているのです。

今日から、このカテキズムを学びますが、神さまが共に歩んで下さるとはどういうことかということ、共に学んで行きたいと思えます。

お祈りします。

神さま、私たちはすぐに神さまを忘れてしまいますが、神さまはいつでもどこでも一緒にいて下さり、ありがとうございます。だからこそ私たちも、いつでも神さまに助けを求め、お祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。「カテキズム」とは何？と思われるかと思います。「ウェストミンスター小教理問答」を、よく礼拝で用いていますが、「教理問答」のことを「カテキズム」と言い、キリスト教の基本的な教えのことです。ウェストミンスターでもそうですが、子どもと親のカテキズムでも、問いと答えとなっており、問答形式を取りますので、「教理問答」の方が分かりやすいかも知れません。

今日は、問2を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちは教会に来て、神さまを礼拝しますが、それは神さまを信じているからであり、神さまを信じている人は、神さまの子どもとされています。小さい子どもばかりか、大人も、お爺さんもお婆さんも神さまの子どもです。

しかし、「神さまと共に歩む」と語っても、神さまは目に見えませんよね。どのようにしたら神さまと一緒に歩むことができるのかということが、問2で語られています。

### 子どもと親のカテキズム 一番大切なこと

問2. 神さまと共に歩むとは、どのようなことですか。

答 まことの神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜び、神さまと人に仕えて歩むことです。

私たちが信じている神さまがどのような神さまなのかを知らなければなりません。父・子・聖霊の三位一体の神さまです。すべてをつくられ、私たちが生きるのに必要なものをすべてをお与え下さる方です。だからこそ、今も、天国で生きて働いておられます。目には見えませんが、生きておられるからこそ、私たちは神さまに祈ることができます。

そして、神さまに感謝して、神さまを誉め称え、喜ぶことが大切です。私たちが神さまを礼拝するというのは、このことです。

そして最後に、神さまと人に仕える、つまり、神さまを愛して礼拝するように、人、それは家族や教会の人たち、友だちばかりか、私たちと会う人みんなですね。困っている人・苦しんでいる人がいれば助け、喜んでいる人がいれば一緒に喜ぶのですよね。

今、コロナが広がり、不自由な生活となります。だからこそ、私たちは神さまと一緒にいて下さり、私たちを助けて下さるように、祈り求めなければなりません。

お祈りします。

天の神さま、神さまが私たちといつも一緒にいて下さるからこそ、私たちの祈りを聞いて下さいますことに感謝します。私たちも、神さまのことをもっと良く知ることができて、神さまと共にいることを喜ぶことができるようにしてください。

そして今、コロナで、多くの人たちが苦しんでいます。神さま、どうか助けて下さい。

このお祈り、イエス様のお名前によって、お祈りします。 アーメン。

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問3を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

なぜ、私たちが神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことが大切なのか？  
そのことの意味が、今日の間3で確認することができます。

問3. 神さまと共に歩むために、罪人である私たちに必要なことは何ですか。

答 イエス・キリストを信じ、救われて、神さまの子どもとされることです。

問3では、私たちが罪人であることを語ります。

神さまは義しく・聖く、真実な方ですから、悪いことを許されません。みんなも悪いことをしたことがあるかと思います。ウソを付いたり、人のことを嫌だと思ふこと、けんかをしたりもしませんか。神さまは、私たちが毎日の行い・言葉・心の中のすべてをご存じです。神さまの前で、私たちは、こうした悪いことを隠すことはできません。だからこそ、私たちは死ななければなりません。

それでもなお、神さまは、私たちが天国に行き、生きること、罪が赦されることを願われました。この時、神さまは、イエスさまを人として生まれさせ、そして私たちに代わって十字架に架かって、私たちの罪を背負ってくださいました。このイエスさまの十字架によって、神さまは、神さまを信じる人たちに罪の赦しを与え、神さまの子どもとして、天国の命を約束してくださいました。

今日の所は、大切なことなのですが、これから一つひとつをゆっくりと学んで行くこととしますので、私たちはイエスさまを信じることによって、神さまの子どもとされているのですよ、天国に行くことができるのですよ、ということをお覚えいただければ良いかと思ひます。

お祈りします。

神さま、罪で死んでいく、滅んでいく私たちを救ってください、ありがとうございます。私たちを救うために、イエスさまが十字架に架かって下さりありがとうございます。

私たちが、イエスさまを信じ、救われて、神さまの子どもとして、歩むことができるように、してください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問4を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちは神さまの前では罪人です。神さまは私たちの行い、言葉、心の中のすべてを知っておられ、非常に小さな罪であっても、神さまは赦すことができず、私たちは誰一人として「自分は正しい」と語ることはできません。そのため、私たちは皆、死んでいくのです。

こうして罪を犯して死んでいく私たちに対して、神さまは、神さまを信じることにより、罪を赦し、神さまの子どもとしてくださり、救いをお与え下さることを宣言して下さいました。つまり、神さまを信じている私たちは、もう神さまの子どもとされています。天国に行くことが約束されています。

では、神の子どもとされた私たちが、どのような生活をしたら良いですかということを、今日は考えて行きます。

問4. 神さまの子どもとして歩む生活で、だいじなことは何ですか。

答 神さまが、ご自分の子どもとして集めてくださった教会の生活を大切にすることです。毎週主の日に神さまを礼拝し、祝福をいただき、世界に送り出されて神さまに仕えて歩むことです。

神さまの子どもとされた私たちにとって大切なことは、毎週日曜日に神さまがお招き下さる礼拝に集うことです。今はコロナ禍にあって、なかなか教会に来ることができないお友だちもいますが、教会はいつでも開かれています。そしてみんなが教会に来る時、神さまは喜んで下さいます。聖書の御言葉によって、神さまを信じるみんなが救われており、神さまの喜びにあることが示されます。そして神さまを信じるみんなは、教会においても、家においても、学校においても、どこで何をしていても、神さまは一緒にいて下さいます。守って下さいます。そして祈りを聞いて下さいます。

だからこそ、教会に来て、神さまを礼拝することにより、神さまは喜んで下さいますが、それだけではなく、教会に来ることが出来ない時にも、神さまに祈りつつ、神さまと共に歩んでいただきたいと思えます。

お祈りします。

神さまは、神さまが私たちを救って下さり、神の子どもとして下さっていることに感謝します。どうか、私たちが神の子どもとして、神さまを礼拝することができるようにしてください。いつでも神さまと一緒にいて守ってください。そして私たちも神さまにいつでも祈ることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのおなまえによって、お祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問5を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

問5. 神さまが私たちに求めておられることは何ですか。

答 神さまを愛し、家族や友だちを愛し、神さまが造られたものを大切にして、祈りつつ歩むことです。

神さまを信じて、神さまの子どもとして、神さまを礼拝することを神さまは喜んでくださいます。しかし、神さまは「それだけではないですよ」とお語りになります。つまり、神さまを知り、神さまを礼拝するのと同じように大切なことが、家族やお友だち、教会の人たちを愛すること、また神さまがおつくりくださった自然や、神さまがお与えくださるすべてのものに感謝して、大切にすることです。

私たちは、神さまを信じなければ、天国にはいきませんが、家族や友だち、一緒にいる多くの人たちを愛さなければ、楽しく生きていくことができません。

「自分には力があるのだ」と偉そうにしていると、力がある時は、周りの人たちは従ってきてくれますが、自分より弱いと思われたら、いじめられます。けんかになります。神さまはそのようなことを望んでおられません。だからこそ、自分にとって嫌なひとであっても、神さまは「その人を愛しなさい。その人のために祈りなさい」とお語りになります。悪いことをされた時にも、「嫌いだ。もう嫌だ。やり返してやりたい」と思ってしまうですが、神さまは、「そのようなことをするのではなく、許しなさい」とお語りになります。

どのような人でも許し、愛し、お祈りすることを、神さまは喜んでくださいます。そして、そうすることによって、神さまはみんなを愛してくださいます。守ってくださいます。

それは、自然や私たちに与えられている物でも何でも同じです。家族や友だちを愛して仲良くするように、自然や持っている物を神さまから与えられていることに感謝して、大切にすることを、神さまは喜んでくださいます。

お祈りします

神さま、神さまはイエスさまの十字架で、私たちに救い、天国に導いて下さいますことに感謝します。また今も、神さまは、家族やお友だち、教会の人たちをお与えくださり、ありがとうございます。けんかをしたり、意地悪をすることなく、みんなを愛して、仲良くすることができるようにしてください。また、私たちに与えられているすべてのものを大切にすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問6を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

そして今日から第一部「信じて歩む道」に入ります。最初に問と答を確認します。

問6 まことの神さまを知り、神さまと共に歩む道は何によってわかりますか。

答 神さまの言葉である聖書によってです。御言葉は私たちの道の光です。

私たちが神さまの子どもとして神さまを信じるのだ、神さまと共に歩むのだと語る時、神さまとはどういうお方であるか知らなければ、私たちは信じることができません。

お父さんお母さんは、多くの人たちにとって、生まれた時から一緒にいるからお父さん、お母さんなんだと段々と分かってきます。しかし、イエスさまは、今は天におられ、目で見ることができません。私たちは目で見ることができなければ、不安になり、疑ってしまいます。そのために神さまは、神さまがどういうお方であるかということを、聖書によって自己紹介して下さいます。そして私たちが聖書を読む時、神の霊である聖霊が働いて下さり、私たちは神さまのことを知るようになります。

だからこそ、毎日少しずつでも聖書を読むこと、また聖書全体で何が語られているかを学ぶことが大切になってきます。

そして聖書を読み進むことにより、神さまが私たちを救い、神の御国である天国に導いて下さること、このことこそが、ここにこそ光があり、私たちが喜びをもって、希望をもって歩く道であることが分かるようになってきます。

毎週・毎日、聖書を読み、神さまの知ることが大切です。

お祈りします。

神さま、私たちに聖書をお与え下さり、ありがとうございます。そして私たちがこれから聖書を読むことにより、もっと神さまのことを知り、救いをお与え下さる神さまに感謝し、喜んで神さまを信じるができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問7を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

そして神さまは、神さまを信じる私たちに聖書をお与え下さいました。私たちは、聖書を読むことによって、初めて私たちを救って下さる神さまがどのようなお方であるか、理解することが出来るのです。

### **〔道の光としての聖書〕**

問7. 聖書が語っていることは何ですか。

答 聖書は、まことの神さまがどのような方であり、私たちのために何をしてくださったか、また神さまと共に歩むとはどのようなことかを語っています。

私たちは、今、直接神さま・イエスさまに直接お会いすることができません。そのため、神さまのことを知ろうとする時、神さまがお与え下さった聖書の言葉に聞かなければなりません。今、みなさんは教会に来て、神さまのメッセージを聞いています。教会に来れば良いではないか、説教を聞けば良いではないかと思われるかと思います。しかし、先生が語ることは、聖書の言葉を分かりやすく語っているのであり、神さまのことを知るためには、聖書を読むことから始めなければなりません。聖書を読むことによって、私たちを救って下さる神さまがどのようなお方であるかを初めて知ることができます。

また、聖書が教える二つ目のこととして、神さまが私たちに何をして下さったのかが語られています。つまり、イエスさまの十字架の死によって、私たちを救い、天国へと導いて下さることが語られています。その結果、神さまが私たちのお父さんとなってくださり、私たちは神さまの子どもとされたのです。このことを知ることによって、私たちが教会に来ることの大切さを知ることができます。

そして聖書の教える三つ目のことは、私たちが神さまの子どもとして、神さまと共に歩もうとする時に、どのようにすれば良いのかということが語られています。

カテキズムでは、この3つのこと、神さまとはどのようなお方であるか、神さまを信じる教会について、そしてクリスチャンとしての生活について学んでいくこととなります。

お祈りします。

神さま、私たちを救い、神さまの子どもとして下さると共に、神さまのことを知り、神さまによる救いのこと、クリスチャンとしての生活のことを教えるために、聖書をお与え下さり、ありがとうございます。

どうか、私たちが、聖書を読み、神さまを知り、神さまを信じることができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

## 子どもメッセージ113 「カテキズム問8 神さまはどんな方？」 2021年2月21日

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。今日は、問8を学ぶこととなりますが、問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

そして私たちは、直接神さまを見ることはできません。だからこそ、神さまがどのような方であるか、私たちは聖書を通して教えて頂かなければ知ることができません。そこで、カテキズムは次のように問いかけています。

### 【三位一体の神さま】

問8 聖書が語っているまことの神さまはどのような方ですか。

答 目には見えない霊なる方で、「あなた」と呼んで、お話しできる神さまです。

この神さまは、永遠で、変わりなく、いつでもどこでもいてくださる、ただひとりの生きたまことの神さまです。

神さまは目には見えません。しかし、「あなた」と呼んで、「お話しができる」と語っています。みなさんも、神さまとお話ししていますが、分かるでしょうか？

お祈りすることは、神さまとお話ししていることです。

- ・感謝：ありがとうございます。
- ・悔い改め：ごめんなさい。
- ・懇願：お願いします。
- ・執り成し：苦しんでいる人を助けてください。

お祈りは、一人ごとではありません。神さまがちゃんと聞いてくださっています。そして答えて下さいます。「神さまの声を聞いたことがない」と語られるかと思えます。しかし、神さまは答えて下さっています。それは、お祈りしたことに対してです。私たちの願いを聞き入れて下さることによって、または「今はまだダメですよ」と語られることによって。また、そのようなことは間違っていますよ。だから願いを聞きません。というようにです。

そしてこの神さまは、「永遠で、変わりなく、いつでもどこでもいてくださる」と語られています。神さまは、天地創造を行い、アダムさん、エバさんと共にいてくださいました。アブラハムさんと共に、モーセさんと共にいてくださいました。そして神さまの子であるイエスさまが人となられました。イエスさまの十字架の死と復活の後、イエスさまは天に昇って行かれましたが、聖霊によって、今も、私たちと一緒にいてくださいます。だからこそ、私たちは、いつでも神さまと一緒に歩むことができます。

神さまは、ただひとり、今も生きて働いておられます。

だからこそ、私たちは、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができます。

お祈りします。

神さま、私たちは神さまを見ることはできません。しかし、聖書をとおして神さまを知ることができ、また、毎日、神さまにお祈りすることにより、神さまとお話できます。どうか、教会にいるすべての人たちが、神さまを知り、信じることができるように、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまを信じる、神さまの子どもとして神さまと一緒に歩むと語る時、どの様な神さまなのかということを考えることは大切です。日本には神社やお寺やいろんな所に、神さまとされるものがあるからです。ここでカテキズムを確認します。

問9 聖書が語っているまことの神さまのほかに神さまがいますか。

答 いいえ、生きたまことの神さまはただひとりだけです。

問10 ほかの神さまとは何ですか。

答 人間が造り出した、命のない偶像です。偶像とは、太陽や月、動物や植物、人間などを神さまのようにすることです。偶像を拝むことは、神さまがもっとも悲しまれることです。

聖書が語っている神さまだけで、他のものは人間のてによって作られたもので、神さまではないのです。人間の手によって作られた神のことを「偶像」と言います。神さまは、人間の手によって造られた偶像を拝むことを悲しまれます。絶対してはいけません。

今では「パワー・スポットだ」と言って、神社や作られたものに力があるように語られますが、それらに何の力もありません。そのように装っているだけです。本当の神さまではないので、祈っても返事をすることはありません。

だからこそ、周りの人たちが、いくら「こちらの方が魅力的だ」と言っても、私たちはそれらを信じてはなりません。聖書が語る神さま、イエスさま、そして聖霊なる神さまの三位一体の神さまだけが、一人、生きておられる神さまです。

来週からは、聖書が語る生きておられる神さまがどのような神さまなのかを、一緒に学んで行きたいと思います。

お祈りします。

神さま、私たちの周りには、「神だ」といわれるいろんなものがあります。多くの人たちが、それらを信じています。しかし、教会に集まる私たちは、聖書が語る神さまだけを神さまとして信じ、神さまの恵みに生きることができるようにしてください。

これからカテキズムを学び続けますが、このことによって、私たちがさらに神さまについて知ることができるようにして、信じることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お献げします。アーメン。

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまを信じる、神さまの子どもとして神さまと一緒に歩むと語る時、どの様な神さまなのかということを考えることは大切です。日本には神社やお寺やいろんな所に、神さまとされるものがあるからです。聖書が語る神さまは、人間の手で作られたもの、偶像ではないことを、先週確認しました。そして、聖書が語る神さまは、父・子・聖霊と呼ばれています。三人の神さまがいるのでしょうか？ このことを、今日は考えて行きます。

問1 1 聖書の中で、神さまは「父」、「子」、「聖霊」と呼ばれていますが、神さまはただひとりではないのですか。

答 聖書の中でそう呼ばれている方は、父なる神さま、子なる神さま、聖霊なる神さまで、それぞれが力と栄光において等しく、同時にただひとりの生きてたまことの神さまです。私たちは、ただ聖書に従って、この三位一体の神さまを信じます。

この答え、難しいですね。父なる神さま、子なる神さま（イエスさまのことです）、聖霊なる神さまと呼びますが、これは一人の主なる神さまです。おうちのお父さんは、おじいちゃん・おばあちゃんから見れば、子どもですね。働いている時は、労働者ですね。いろんな働きを行います。

神さまも、父なる神さまとしての働きを行われる時・子なるイエスさまとして働かれる時、そして聖霊なる神さまとして働かれる時があります。しかし神さまは、それぞれの働きを行いながらも、父と子、父と聖霊、子と聖霊が、互いに愛しつつ交わりをもつお方です。私たちにとっては不思議なことです。理解できないかもしれません。

しかし理解できないからといって、がっかりする必要はありません。神さまが私たち人間を造ってくださり、命をお与えくださっています。そうであるならば、私たちが、神さまのすべてを知ることなどできないからです。

ただ、今日は一つのことを覚えて頂きたいと思います。父なる神さま、子なる神さま（イエスさまのこと）、聖霊なる神さまと言われますが、一人の三位一体の神さまなのだということです。神さまが愛の交わりをしておられるからこそ、私たちも神さまを愛し、一緒にいるすべての人たちを愛することができるのです。

お祈りします。

神さま、三位一体の神さまを理解することは難しいことです。それでも、神さまの愛の交わりが私たちに与えられていますことに感謝します。私たちも神さまの愛を知り、神さまを信じるができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまを信じる、神さまの子どもとして神さまと一緒に歩むと語る時、どのような神さまなのかということを考えることは大切です。日本には神社やお寺やいろんな所に、神さまとされるものがあるからです。聖書が語る神さまは、人間の手で作られたもの、偶像ではないことを、先週確認しました。そして、聖書が語る神さまは、父・子・聖霊と呼ばれています。三人の神さまではなく、なおも一人の神さまであることを確認して来ました。この時、父なる神さま、子なる神さまとしてのキリスト、聖霊なる神さまがそれぞれ、どの様なお働きを行うのかを確認することにより、三位一体の神ということが、少しは分かってくるかと思えます。

問12 三位一体の神さまは私たちの救いのためにどのように働かれますか。

答 父なる神さまは救いを計画し、子なる神さまは救いをなしとげ、聖霊なる神さまはその救いを私たちのうちに与えてくださいます。私たちの救いは初めから終わりまですべて神さまの恵みの働きです。

三位一体の神さまは、それぞれに働きがあります。父なる神さまは、天地万物を6日間で創造される前に、私たちの救いを計画してくださいました。そして計画されたことが、そのとおりになるように、今も、天国において、すべてを導いておられます。

子なる神であるキリストは、人としてこの世に来て下さいました。その目的は、私たちを救うために、キリストが私たちの代わりに十字架の苦しみと死を遂げるためでした。キリストは死に打ち勝って甦りになり、今も天におられます。そして、もう一度、この世に来て下さる時、私たちの救いを完成して下さい、私たちを天国へと招き入れて下さいます。

そして、聖霊なる神さまは、今も私たちと共にいて下さり、私たちを見守っていて下さいます。私たちに必要なすべてを備え、私たちの祈りを聞き届けて下さいます。

このように、父・子・聖霊の三位一体の神さまは、それぞれ別々の働きを行われますが、なおも一人の神として、私たちを救うために、お働き下さっています。

だからこそ、私たちも、三位一体なる神さまがおられること、この三位一体の主なる神さまによって、私たちは救いが与えられ、天国へと招き入れられることを、信じて、神さまを信じて頂きたいと思えます。

主なる神さま、神さまが、私たちを愛して下さい、救って下さり、ありがとうございます。神さまが私たちを愛し、救って下さっているからこそ、私たちは、天国の希望をもって生きることができます。これからも、いつも、神さまが私たちと共にいて、見守ってくださいますように、お願いいたします。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまを信じる、神さまの子どもとして神さまと一緒に歩むと語る時、どの様な神さまなのかということを考えることは大切です。日本には神社やお寺やいろんな所に、神さまとされるものがあるからです。聖書が語る神さまは、人間の手で作られたもの、偶像ではありません。聖書が語る神さまは、父・子・聖霊と呼ばれています。三人の神さまではなく、なおも一人の神さまであることを確認して来ました。この時、父なる神さま、子なる神さまとしてのキリスト、聖霊なる神さまがそれぞれ、どの様なお働きを行うのかを確認することにより、三位一体の神ということが、少しは分かってくるかと思えます。今日からは、父なる神さまについて学ぶこととします。

問13 父なる神さまはどのような方ですか。

答 父なる神さまは、独り子であるイエスさまの父であり、神さまの子どもとされた私たちの父でもある方です。また、天と地の造り主で、今もすべてを支配しておられる全能の神さまです。

父なる神さまについて、2つのことが語られています。まず存在としては、御子であるイエスさまのお父さまであり、クリスチャンとされた私たちのお父さまでもあります。だからこそ私たちは、祈る時に「父なる神さま」、「天のお父さま」と祈り始めます。

そして第二のこととして、父なる神さまがどのようなことを行われたのかと言えば、天地のすべてを創造された神さまで、その時から、今も、そしていつまでも、世界のすべてを支配しておられる神さまです。

父なる神さまが、ちゃんと私たちをお覚え下さり、救って下さったからこそ、私たちは神さまを知り、イエスさまの十字架を信じることができます。それに、今も、父なる神さまが、イエスさまと通して私たちと一緒にいてくださるからこそ、私たちは、祈ることができ、父なる神さまによって祈りが聞かれます。

だからこそ、父なる神さまがおられることに感謝していただきたいと思えます。

お祈りします。

父なる神さま、神さまがおられるからこそ、私たちは救われ、ありがとうございます。また、いつも、祈りが聞かれることを信じて、祈ることができ、ありがとうございます。どうかこれからも、父なる神さまと一緒にいてくださることを信じて、安心して教会に来たり、祈ったりすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

子どもメッセージ118 「受難週 最後の晩餐」 ルカ22:14~23 2021年3月28日

教会にとって、クリスマスと共に大切なお祝いをする時がイースターです。イエスさまが十字架で苦しまれ、死を遂げられてから三日目の朝に甦られたことを記念する日です。このイースターが来週となり、その前の週の今日は、「受難週」と言います。イエスさまが十字架で苦しまれたことを覚える一週間です。

イエスさまは逮捕され、十字架に架かれる時、弟子たちと共に最後の晩餐（食事）を取られました。この時イエスさまは、これから逮捕され、十字架に架かることを知っておられました。だから、食卓にあるパンは、「これは、あなたがたのために与えられる私の体である」とお語りになり、ワインは「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である」とお語りになりました。

今日はありませんが、礼拝の中で聖餐式を行うことがあります。聖餐式は、イエスさまの最後の晩餐によって語られたことを守っています。そしてイエスさまが十字架に架かれ、死を遂げられたことによって、私たちの罪も赦され、神様の子どもとして天国に行けることを覚えます。

イエスさまが、弟子たちと最後の晩餐を行われたのは、偶然ではなく、予想があつたからでもなく、神様の子どもであるイエスさまだからこそ、これから起こることもすべて知っておられたからこそ、このように行われました。

私たちはいつもイエスさまの十字架を覚えなければなりません。みんなはまだ信仰告白を行っていませんから、聖餐式に与ることができませんが、みんなも信仰告白を行い、聖餐式に与ることが出来る日が来ることを、願っています。

そして、イエスさまが私たちの救いのために、十字架の苦しみと死を遂げられ、復活されたことこそが、私たちにとって一番大切なことであることを、覚えていただきたいとおもいます。来週は、イエスさまの復活を覚えますイースターです。一緒にお祝いをしましょう。

お祈りします

父なる神さま、イエスさまが私たちのことを覚え、私たちを救うために十字架に架かってくださいましたことに感謝します。そしてすぐにこの喜びを忘れてしまう私たちに聖餐式を準備してくださり、ありがとうございます。

みんなも、信仰を告白して、聖餐式に与る時が来ますように、神さま、お導きください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

## 子どもメッセージ119 「イースター キリストの復活」 ルカ24:1～12 2021年4月4日

今日はイースターというクリスマスと同じ位大切なお祝いの日です。それがイエスさまが十字架で死を遂げられてから三日目の朝に甦りになられた日です。

死んだ人が、生き返ることなど、誰も信じることができませんでした。イエスさまと一緒に歩んできた人たちも同じです。お弟子さんたちは、自分も同じように捕まって、死刑にされるのでは無いかと思い、逃げて、隠れていました。イエスさまと一緒にいた女性たちは、イエスさまが葬られたお墓に行きます。イエスさまが十字架でお亡くなりになった時、すぐに安息日が来て、十分にイエスさまの遺体を葬る準備ができなかったから、改めてイエスさまを葬るためでした。

イエスさまのお墓は、洞穴でした。そのため、お墓の前に大きな石をおいて、ふさいでいました。しかし、女性たちがお墓に行った時には、その大きな石は、横に転がしてあり、すぐに中に入っていくことができました。しかし、女性たちは、イエスさまの遺体を見つけることができません。復活したことなど考えられず、誰かに盗まれたのだろうと思ったかと思います。

しかしこの時、輝く衣を着た二人の人が現れて女性たちに語ります。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」。

そして、捕まって、十字架につけられ、三日目に復活することを語っておられたことを語ります。

女性の人たちは、イエスさまの言葉を思い出し、そして二人の言葉を信じて、帰って行き、イエスさまの11人のお弟子さんたちに、すべてのことを語りました。イエスさまのお弟子さんたちは、まだ信じることができませんでした。

しかし、その後、復活されたイエスさまは、この女性たちに、そしてイエスさまのお弟子さんたちの前に現れ、実際に甦りになられたことを示されます。

私たちがイエスさまを神さまとして信じるのは、私たちは不可能だと思っている死から甦ることができる力を持っている神さまだからです。イエスさまは、その後、天国に昇って行かれ、今も、天国で、私たちを覚えて、お祈りして下さっています。

イエスさまが復活されたように、神さまを信じる私たちも、復活して、天国に行くことができることを信じて頂きたいと思います。

お祈りします。

神さま、イエスさまが十字架の死から復活してくださり、ありがとうございます。イエスさまを信じる私たちも、天国へいけるように、お導き下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、もう一度確認します。お聞き下さい。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

そして神さまは、父・子・聖霊なる三位一体の神さまであることを語っていますが、父なる神さまのお働きを学ぶこととします。

問14 天と地を造られた、神さまの働きとは何ですか。

答 それは、私たちの神さまが、何も無いところから天と地とそこにあるすべてのものを、きわめて良いものとして造られた働きのことです。神さまのこの働きを創造と言います。

神さまは、何も無い状態から、最初に「光あれ」と語られることにより、すべてのものを造られました。それは6日間にわたって行われ、神さまは、一つひとつをすばらしいものとして造られました。

私たちが生きているこの地球も、宇宙もです。空、陸地、海、森、平地、太陽、月、空気、水、植物、動物、鳥、魚……、すべてのものが神さまによって造られました。

そして最後に私たち人間も造って下さいました。

多くの人たちは、宇宙は自然に造られ、動物が進化し、人間になったと語り、学校でもそのように教えられます。多くの人たちがこのことを信じています。しかし、聖書は、神さまが言葉によって世界を造ったこと、そしてそれぞれの動物も、別々に神さまが造られたことを教えています。

私たちは、宇宙が造られた頃に戻って、それを見ることはできません。多くの人たちが信じていることであっても、それが正しいと決定することはできません。

しかし、主なる神さまは、聖書に、宇宙も地球も、そのすべてを造られたことを教えています。私たちは、神さまが聖書をとおしてお教え下さったことを信じています。

そして、神さまが造って下さったすべてのものは、とてもすばらしいもので、神さまご自身も、「それは極めて良かった」とお語りになりました。私たちは、神さまによって造られたすばらしい世界に生きています。だからこそ、神さまを信じ、神さまに感謝して、毎日を過ごしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまが世界をお造りくださり、今も、私たちがこのすばらしい世界に生きることができ、ありがとうございます。神さまがお教えくださった教えを、信じるができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

子どもメッセージ121 「カテキズム問15, 16 すべてを支配される神」 2021年4月18日

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、繰り返しになりますが確認します。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

そして神さまは、父・子・聖霊なる三位一体の神さまであることを語っていますが、父なる神さまのお働きを学んでいます。父なる神さまの働きは、天地万物を創造されて終わりではありません。その後も、そして今も働いておられます。そのことを今日の間答で語っています。

問15 今もすべてを支配しておられる、神さまの働きとは何ですか。

答 それは、私たちの神さまが、創造された世界をご計画に従って今も支配し、私たちを救いの完成へと導いておられる働きのことです。神さまのこの働きを摂理と言います。

問16 運が悪いと言ったり、占いを気にしたり、たたりを心配する必要はありますか。

答 いいえ。キリストの父である神さまは、子どもである私たちを愛し、いつも守ってくださいます。たとえ涙がとまらないようなことがあっても、すべてのことが私たちの役に立つように導いてくださいます。

私たちの目には神さまが見えません。そのため、お友だちに神さまのことをお話しても信じてもらえないかも知れません。しかし、神さまは私たちといつも一緒にいてくださり、そして私たちを守ってくださいます。

だからこそ、私たちは、苦しい時でも、悲しい時でも、神さまにお祈りすることができます。神さまは生きておられるからこそ、神さまは私たちの祈りを聞いてくださいます。約束を守ってくださいます。だからこそイエスさまも、このようにお語りになります。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。……あなたがたのだれが、パンを探しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。……まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」(マタイ7:7~11)。

神さまは、いつもみんなと一緒にいてくださいます。そして、神さまは、私たちに一番良いものをお与えくださいます。だからこそ、どんな時にも、神さまを信じ、神さまを頼ってお祈りをさせていただきたいと思えます。

お祈りします。

神さま、私たちには神さまが見えませんが、神さまがいつも一緒にいてくださり、私たちを守ってくださいますことに感謝します。だからこそ、私たちも、どんな時にも、神さまを信じて、神さまに助けを求めて、お祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

子どもメッセージ122 「カテキズム問17,18 神に造られた人間」 2021年4月25日

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、繰り返しのようになりますが確認します。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

父・子・聖霊の三位一体の神さまがおられること、そしてこの神さまが、天地万物のすべてを造られ、そして今も、永遠にすべてを治めておられることを学んできました。

そして今日は、私たち人間についてです。神さまが天地万物を6日間で造られた時、その最後に人間を造って下さいました。カテキズムを確認します。

問17 神さまはどのように人間をお造りになりましたか。

答 神さまは、ご自分のかたちに似せて、神さまの子どもとして神さまと共に歩むように、また男と女に、人間をお造りになりました。

神さまが人間を造ってくださったのは、他の動物とは違い、神さまのかたちに似せてお作りくださいました。だから私たち人間は、神のかたちをもっています。この時、私たちはどの様に生きるのかということが大切になります。

問18 神さまのかたちに似せて造られた人間は、どのように歩むのですか。

答 神さまを礼拝し、神さまを喜び、家庭や友だちを愛し、神さまがお造りになったものを大切にして、神さまに仕えて歩みます。

神さまのかたちに造られたということは、神さまとの交わり、つまり神さまを礼拝し、神さまと一緒にいることを喜び、そして、神さまがお与え下さった家族や友だちを愛し、神さまがお造りになられたすべてのものを大切に生きることとなります。

だから、私たちも、みんなも、神さまによって造られたのであり、神さまを信じて、神さまを礼拝することが、一番大切なことであることを、カテキズムは教えています。だからこそ、カテキズムは問1で、「私たちは、神さまと共に歩むこと」が一番大切なことですよと教えています。

だからこそ、私たちは、神さまによって神さまのかたちに造られたこと、そして神さまとの交わりとして神さまを礼拝して、神さまと共に歩むことが、何よりも大切なことであることをお覚えいただければと思います。

お祈りします。

神さま、神さまが、私たち人間を神のかたちに、お造りくださり、ありがとうございます。だからこそ、私たちがいつでも神さまを覚え、神さまを信じ、神さまを礼拝することができるようにお守りください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

今年から、子どもと親のカテキズムから学んでいます。問1が大切ですので、繰り返しになりますが確認します。

問1. 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

神さまが人間を神さまのかたちに似せてお造り下さいました。神さまを礼拝して、神さまとの交わりを行うこと、そして周りの人たちと仲良く、愛し合うことによって、神さまの喜びが満たされました。この時、人間に死はありません。いつまでも神さまと共に生きることができました。

しかし、そうした時が続いたわけではありません。

問19 最初に人間は、創造された時のすばらしい祝福の状態にとどまりましたか。

答 いいえ。アダムとエバは、神さまの言葉に背き、罪を犯しました。

最初の人、アダムさんとエバさんが、罪を犯してしまいました。そのきっかけをつくったのは蛇でした。蛇はエバさんに語ります。「園のどの木から食べてはいけない、などと神は言われたのか」と。神さまは「園のすべての木から取って食べなさい」と語られていました。「ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」と語られていました。

この時エバさんは蛇に、「わたしたちは園の木の果実を食べても良いのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました」と答えます。

園にはいっぱいの木がありました。善悪の知識の木から食べなくても、満たされました。ですから、人間は楽しく過ごすことができました。しかし、蛇は、食べてはならない善悪の知識の木の実に注目させます。いままで気にしたことがなかったことを気にし出すと、どうしようもありません。ですからエバさんは、過剰に反応して「触れてもいけない」と答えました。これが罪の入口です。

蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

アダムとエバが罪を犯すことにより、死ぬこととなります。そして、私たちも必ず死にます。罪を犯すからです。

神さまは、私たちに生きることを求めておられます。そのために、神さまを信じて、神さまの言葉である聖書の御言葉に従って生きることが求められています。神さまを信じて、神さまと共に歩んでいただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、アダムさんとエバさんが蛇に誘惑されたように、私たちには多くの誘惑があります。神さま、私たちを守ってください。そして、私たちが神の子として、神さまを信じて、神さまと共に歩むことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのおなまえによってお祈りします。アーメン。

神さまによってつくられた最初の人間であるアダムさんとエバさんは、神のかたち、神に似せてつくられたため、神さまと共に生き、神さまを喜んで生きることができました。しかし、神さまが最初に約束されていたとおり、善悪の木の実から食べて罪を犯したため、死ぬこととなりました。

私たちは今日、罪とは何か、罪によってどこに向かって生きているのかを考えることとします。

## 問20 罪とは何ですか。

答 神さまの言葉に背くことです。神さまの言葉にひとつでも従わないならば、私たちは神さまの御前に罪人です。

神さまの言葉、聖書の言葉に、行い・言葉・心の中で従わないことは、すべて罪です。アダムの子として生まれた私たちも、毎日、神さまの前で罪を犯している罪人です。

## 問21 罪を犯した人間はどのようになりましたか。

答 人間は生まれながら悪へとかたむく罪人になってしまいました。神さまとの交わりを失い、神さまに背いて歩むようになり、神さまの怒りを受け、ほろびの死にさだめられました。

そして、罪を犯した人は、滅び、つまり死を避けてとおることができなくなりました。人間として生まれた人が、皆死んでいくのは、このためです。そして神さまから離れました。

## 問22 神さまに背いた人間はどのように歩むようになりましたか。

答 心が曲がって、偶像を拝むようになってしまいました。他の人を愛さないで、にくみ、いじめたりするようになってしまいました。神さまがお造りになったものを大切にせず、自分勝手に用いるようになってしまいました。

神さまから離れても、人間は、神さまを求めようとするため、自分たちで別の神を作り、偶像礼拝を行うようになります。そして神さまを忘れた時、人間は、他の人たちと楽しく生きることを止めて、自分の思いを達成するために生きるようになりました。この時、他人がいやがることを行っていじめたり、自分が欲しいものを他人から奪ったり、自分勝手な、自己中心の生き方を始めます。

このように、罪を犯し、神さまから離れて生きる時、人間は滅びへと向かいます。しかし、神さまは、それでも、みんなのことが大好きで、神さまを信じるように教会へとお集めくださっています。だからこそ、私たちは、神さまを愛し、神さまを礼拝し、神さまと一緒に歩むことが求められています。この時、周りの人たちとも、けんかすることなく、仲良く、楽しく過ごすことができるようにされていきます。

お祈りします。

神さま、私たちも罪を犯して、神さまから離れていました。それでも神さまが私たちを教会に集めてくださり、ありがとうございます。神さまによって赦され、神さまと共に、生きることができるようになってくださり、ありがとうございます。これからも、私たちが神さまを信じて、神さまを礼拝し、いつも神さまと共に歩むことができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

なぜ、神さまを信じて、神さまの子どもとして、教会に来ることが必要なのでしょうか？先週、神さまによって作られた人間が罪を犯したことを学びました。そして、今日のカテキズムにおいて、

**問23** では、あなたも罪人ですか。

**答** はい、私も神さまの御前に罪人です。神さまの怒りと裁きを受けなければなりません。

と語られています。私は罪を犯す恐ろしい人ではないと思うかも知れません。しかし、

**問20** 罪とは何ですか。

**答** 神さまの言葉に背くことです。神さまの言葉にひとつでも従わないならば、私たちは神さまの御前に罪人です。

と語られています。兄弟・家族の人やお友だちとけんかしたことはありませんか？ たいたりしたことはありませんか？ 言葉で「嫌いだ」といったことはありませんか？ 心の中で「あの人が嫌い」と思うことはありませんか。そのすべてが、神さまの御前では、悪いこと、つまり罪です。神さまは、私たちのすべてを知っておられます。だからこそ、神さまの御前では何一つ隠すことはできません。先生も、そしてみんなも、神さまの御前では罪人です。だからこそ、神さまからの怒りと裁きを受けなければならず、いつまでも生きることはできないのです。いつかは死ななければなりません。

しかし、神さまを信じる人は、神さまは私たちの赦してくださいます。そして神さまの子どもとして受け入れてくださいます。私たちが教会に来て、神さまを信じるのは、神さまの子どもとして、神さまと一緒に歩むこと、つまり天国に行くことができるからです。

お祈りしましょう。

神さま、私たちは毎日、ウソをついたり、心の中で悪いことを思ったりして、悪いことをしてしまいます。それでも、神さまは、神さまを信じる人を神さまの子どもとして受け入れてくださり、天国につれて行ってくださることに感謝します。ありがとうございます。

どうか、私たちがいつでも神さまを忘れることなく、神さまを信じて、神さまと一緒に歩み続けることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

しかし、神さまの御前では、私たちが罪人だと言われています。神さまは十戒により、何が正しいのか、何が罪なのかを定めておられますが、私たちは十戒を守ることができません。「全部守ることができる」と言える人がいたとしても、毎日の生活で、行い・口からの言葉・心の中も、すべて神さまはご存じです。きょうだいや友だちをいじめたり、悪口を言うことも、神さまの御前では罪です。

そのため、次の問24ではこのように語られます。

**問24** 自分の力で神さまの怒りと裁きから救われることはできますか。

**答** いいで、できません。私たちは、悪へといつも向かってしまい、どんな良い行いをして、神さまの御前に自分の罪をつぐなうことができないからです。

罪を犯した人は死ななければなりません。滅びます。だれも、自分の力で、天国に行くことはできません。しかしそれでも神さまは、私たちを愛していてくださいます。だからこそ、次の問いでこのように語られます。

**問25** 神さまは、このような罪人となった私たちを、ほろびるままにお見捨てになりましたか。

**答** いいえ。神さまは、私たちをあわれんで、救い主によってご自分の子どもに回復しようと、御心のままにあらかじめおさだめになりました。この救い主によって、神さまは私たちを罪とほろびから救い出してくださいます。

神さまによって教会に集められた私たち、神さまを信じている私たちには、神さまの子どもとなることが約束されています。来週学ぶこととなりますが、私たちを救うために、父なる神さまの子どもであるイエスさまが人としてお生まれになられ、私たちの代わりに十字架にお架かりくださり、死をとげてくださいました。そればかりか、死から三日目の朝に甦ってください、私たちも天国で生きることが出来ることを約束して下さいました。だからこそ、私たちは、イエスさまの十字架を信じて、神さまの子どもとして、教会にきて、神さまを礼拝すること、いつも神さまと一緒に歩むことが求められています。

神さまの救いにあることに感謝したいと思います。

お祈りします。

神さま、私たちが罪を犯したにも関わらず、神さまが赦してください、救って、天国へとお招きくださいますことに感謝します。どうか私たちが、神さまを信じて、いつも神さまと共に歩み、神さまの恵みに満たしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

神さまは、みんなのことが大好きだから、神さまの子どもとして神さまと一緒に生きることを喜んでくださいます。

しかし、私たち人間は、罪があり、そのままでは救われません。神さまと一緒に歩むことはできません。罪という悪いことを行ったり、口で悪口を言ったり、心の中で思ったりすることのすべてが、神さまにとっては罪だからです。

それでも神さまは、私たちのことが大好きだから、私たちを神さまの子どもとするために、イエスさまを人としてつかわせてくださいました。12月にクリスマスをお祝いしますが、クリスマスはイエスさまが人としてお生まれになられたことを、みんなで一緒に祝いする日です。

そしてイエスさまについて、カテキズムはこのように語ります。

**問26** 私たちを、罪とほろびから救い出してくださる救い主とはだれですか。

**答** イエス・キリストです。この方は、父なる神さまの独り子であり、まことの神さまです。また、私たちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより罪のない方として生まれ、まことの人となってくださいました。イエスさまは、まことの神さまであり、まことの人です。

イエス・キリストという人は、真の神さまですが、特別に守られて人としてお生まれになられました。そのためイエスさまは、神さまとしての力を持っておられ、私たちを救い、私たちを神さまの子どもとして、神さまの恵みを与えることができるお方です。

私たちはイエスさまを神さまと信じ、イエスさまによって行われる十字架により、私たちが救われていることを信じる時、神さまは、私たちを神さまの子どもとして受け入れてくださいます。

お祈りします。

神さま、神さまが私たちを愛してくださり、私たちを救うために、神の独り子であるイエスさまをお送りくださり、ありがとうございます。

私たちも、イエスさまを信じ、神さまの子どもとして、喜んで礼拝に出席することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

神さまは、みんなのことが大好きだから、神さまの子どもとして神さまと一緒に生きることを喜んでくださいます。

しかし、私たち人間は、罪があり、そのままでは救われません。神さまと一緒に歩むことはできません。罪という悪いことを行ったり、口で悪口を言ったり、心の中で思ったりすることのすべてが、神さまは赦すことができないからです。

しかし神さまは、私たちのことが大好きだからこそ、私たちを救うために、イエス・キリストを人としてお遣わしく下さいました。このイエスさまが、まことの神さまだけれども、同時に、まことの人であることについて、今日は考えて行くこととします。

**問27** どうして救い主はまことの神さまでなければならないのですか。

**答** まことの神さまである方だけが、私たちの罪を完全につぐない、私たちを神さまとの交わりへと回復し、神さまの子どもとしてくださることがおできになるからです。

私たちの罪は、私たち自身が償うことができないのであれば、他の誰かが、代わりに背負わなければなりません。この時、私たちの罪を代わりに背負うことができる方は、罪のない神さまであるイエスさま以外には、だれも行うことができないのです。そして、イエスさまがまことの神さまだからこそ、神さまと私たちとの交わりを回復して下さり、私たちを神さまの子どもとして、天国に導くことがおできになります。

**問28** どうして救い主はまことの人でなければならないのですか。

**答** 神さまに背き、罪を犯し、神さまの怒りと裁きをまねいたのは私たち人間です。

救い主は、罪のないまことの人として私たちにかわって罪をつぐなう必要があったからです。

私たちの罪を償うのは、私たちと同じ人間でなければなりません。だからこそ、私たちに代わって十字架の苦しみと死を遂げることにより、私たちの罪を償い、罪を赦すことができるお方は人間としてのイエスさまでなければなりませんでした。

私たちの救い主イエス・キリストが、まことの神であり、まことの人であるということ、二性一人格と言います。イエスさまが、まことの神であり、同時にまことの人とされたからこそ、私たちはイエスさまによって救いが与えられたのです。

お祈りします。神さま、まことの神さまの子であるイエスさまが、私たちを救うために人としてお生まれくださり、私たちのために十字架にお架かりくださったため、私たちに救いが与えられたことに感謝します。

二性一人格は、私たちには難しいですが、私たちが受け入れ、イエスさまを救い主として信じるができるようにお導きください。

このお祈りイエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは、みんなのことが大好きだから、神さまの子どもとして神さまと一緒に生きることを喜んでくださいます。

しかし、私たち人間は、罪があり、そのままでは救われません。神さまと一緒に歩むことはできません。罪という悪いことを行ったり、口で悪口を言ったり、心の中で思ったりすることのすべてが、神さまは赦すことができないからです。

しかし神さまは、私たちのことが大好きだからこそ、私たちを救うために、イエス・キリストを人としてお遣わしく下さいました。聖書に記されている人たちの名前には理由があるのですが、どのような意味でイエス・キリストと名付けられているのか、カテキズムより確認したいと思います。

**問29 イエスさまは、どうしてイエス・キリストと呼ばれるのですか。**

**答 「イエス」とは主は救い、「キリスト」とは油を注がれた方という意味です。むかし、預言者や祭司や王は油を注がれて、そのつとめにつきました。イエスさまは、聖霊によって油を注がれ、神さまによって完全な預言者、祭司、王として、救い主のつとめにつかれました。**

「イエス」とは救い主という意味が込められています。旧約聖書では「ヨシュア」と呼ばれていた名前です。聖書には、「ヨシュア」や「イエス」という名前の人たちが多く出てきます。イスラエルの人たちは救い主を待っていましたから、息子に「イエス」という名を付ける人が多かったのです。そのため、イエスさまも、「ナザレ村出身のイエス」とか、「ヨセフの子イエス」と呼ばれていました。

「キリスト」は名字なのかとも思いますが、神さまから与えられた働きの名前です。私ならば「牧師」、あるいは「先生」と呼ばれます。「キリスト」という名前には、神さまから働きが与えられた人ですよ、という意味が込められています。

神さまから与えられたイエスさまの働きに関しては、来週以降順番に学んで行くこととなりますが、旧約聖書では、「預言者」の働き、「祭司」の働き、「王」の働きがありますが、イエスさまは、この預言者・祭司・王としての3つの働きを行う救い主として、神さまからつかわされた人ですよ、という意味で「キリスト」と呼ばれています。

お祈りします。

神さま、神さまが私たちを救い、天国に導いて下さるために、イエス・キリストをお与え下さり、ありがとうございます。イエスさまが、救い主として、私たちを救うために十字架にお架かりくださいました。イエスさまのお働きに、感謝して、イエスさまを救い主として信じるができるようにお導き下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前により、お祈りします。アーメン。

子どもメッセージ130 「カテキズム問30 救い主のつとめ」 2021年6月20日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまを信じて、神さまの子どもとして歩もうとする時、イエス・キリスト、イエスさまを信じるのが大切ですよと語ってきました。イエスさまが真の神さまであり、人間となられた方です。私たちを救って下さいます。

ではなぜ、私たちは、なぜイエスさまを信じると救われるのかということ、今日から順番に学んで行くこととします。

問30 イエスさまは私たちの救い主としてどのようにそのつとめをはたされますか。

答 イエスさまは、私たちの救い主として、十字架の死にいたるまでの低くへりくだられた時も、復活から始まる高く挙げられている時においても、預言者、祭司、王としてのつとめをはたされます。

真の神さまであるイエスさまがお生まれになられたのが、クリスマスです。カテキズムは、イエスさまが、十字架の死にいたるまで低くへりくだられたと語ります。イエスさまは、真の神さまだからこそ、本当ならば、私たち人間とは違った素晴らしい状態、天国におられるお方です。

神さまが、人間になられる必要などありません。

しかし、イエスさまは人間としてお生まれくださり、神の身分におられるのではなく、人間として低い状態に留まりました。

しかし、イエスさまが十字架に死に、三日目に復活された後に、イエスさまは天国に昇られ、今も、天国におられ、私たちを覚えてお祈りくださっています。それが神さまとしての高い状態です。

イエスさまは、いつでも、私たちを罪の滅びから救い、私たちが天国に行くために、預言者として、祭司として、王としてお働きになりました。預言者、祭司、王がどのようなお働きか、来週から、続けて学んで行きますが、イエスさまは、どのような時にも、私たちを覚えてお働き下さっていることを、お覚え頂きたいと思います。

お祈りします。

主なる神さま、イエスさまが、真の神として、真の人として、私たちを救うために、いつもお働きくださっていますことに感謝します。私たちが、イエスさまのお働きを覚え、イエスさまのお働きによって私たちが救われていることに感謝して、イエスさまを信じることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

## 子どもメッセージ131 「カテキズム問31 預言者の働き」 2021年6月27日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとなり、いつも神さまと共に歩もうとする時、真の神さまでありながらも、人としてお生まれ下さったイエス・キリストを信じるのが大切ですよと語ってきました。

ではなぜ、イエスさまを、私たちは信じなければならないのでしょうか？ イエスさまにとって一番大切なことは、私たちの代わりに十字架にお架かりになり、私たちの代わりに死んでくださり、死に打ち勝って甦ってくださったことです。しかし、イエスさまが私たちのためにお働きくださったのは、十字架だけではありません。

イエスさまのお働きには、預言者・祭司・王としてのお働きがありますが、一つずつ学ぶこととします。

**問31 預言者としてのイエスさまのお働きは何ですか。**

**答 イエスさまは、預言者として、聖書の言葉と聖霊によって、神さまの御心を教えてくださいます。今も、教会の説教を通して、また一人一人に聖書とお祈りを通して語りかけてくださいます。ですから、私たちは心をこめてキリストの御言葉を聞きます。**

「予言」と聞けば、「未来を占う人」のように思います。しかし、漢字では、「あらかじめ」という言葉に「言葉」がついています。神さまの言葉を与え、語る人のことです。イエスさまは、お弟子さんたちに救いの言葉「福音」を語りました。そして今、私たちは聖書の言葉に聞きます。イエスさまが話された言葉も、聖書に記されている言葉も、すべてが神さまの言葉です。

この言葉を、イエスさまは私たちにお与えくださいました。私たちは、このイエスさまの言葉である聖書に出会うことにより、神さまと出会い、神さまを信じることができます。そして、私たちは、聖書の言葉により、イエスさまによって行われた十字架により、私たちが救われたことを知り、信じることができます。そして神さまがいつも一緒にいてくださり、私たちを守り導いてくださることを信じるができるかと思えます。

だからこそ、神の言葉である聖書の言葉、そして聖書が語られるメッセージ（説教）を聞いて頂きたいと思えます。

お祈りします。

神さま、イエスさまのお働きにより、聖書の言葉が与えられ、今も、聖書の言葉により、私たちがイエスさまと出会い、神さまを信じるができるようにしてくださり、ありがとうございます。

どうか私たちが、神さまを知り、神さまを信じて、いつも神さまと共に歩むことができるように導いてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

## 子どもメッセージ132 「カテキズム問32 祭司の働き」 2021年7月4日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとなり、いつも神さまと共に歩もうとする時、真の神さまでありながらも、人としてお生まれくださったイエス・キリストを信じるのが大切ですと語ってきました。

ではなぜ、イエスさまを、私たちは信じなければならないのでしょうか？ イエスさまにとって一番大切なことは、私たちの代わりに十字架にお架かりになり、私たちの代わりに死んでくださり、死に打ち勝って甦ってくださったことです。イエスさまのお働きには、預言者・祭司・王としてのお働きがあり、先週は預言者として言葉を語られ、聖書をお与えくださったことを、学びました。

そして今日は祭司についてです。祭司といっても難しいかも知れませんが、イエスさまの祭司としての働きの中心が、十字架にお架かりになられたことです。問答を確認します。

**問32 祭司としてのイエスさまのお働きは何ですか。**

**答 イエスさまは、祭司として、私たちの罪をつぐないのためにご自分の命を十字架にささげてくださいました。今も、天にあって私たちのためにとりなしててくださいいます。ですから、私たちは、キリストの名によって心をこめてお祈りします。**

祭司とは、神さまの前で、私たちの罪の赦しをお願いする働きです。イエスさまは、神の子どもであり、イエスさまご自身が罪の赦しを求める必要はありません。しかし、イエスさまは、十字架にお架かりくださいました。それが、私たちの罪を赦すためであり、私たちを救うためでした。

だからこそ、イエスさまを信じる人は、イエスさまの十字架によって、罪が赦され、神さまの子どもとされます。

それだけではありません。イエスさまは、今、天国におられますが、いつも私たちのことを見守ってくださいいます。そして、いつも、私たちを守り、そしてとりなし、つまり、私たちのために祈り続けてくださっています。だからこそ私たちは、いつでも神さまに守られ、神さまの子どもとして、喜びをもって暮らすことができます。

お祈りしましょう。

神さま、イエスさまが私たちの救いのために十字架にお架かりくださりありがとうございます。イエスさまは十字架で死を遂げられただけではなく、復活して、今も、天国にいて、私たちのために祈り続けてくださっていることも、ありがとうございます。

これからも、いつも、私たちを見守り、私たちが神さまの子どもとして歩むことができるように、おねがいします。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

## 子どもメッセージ133 「カテキズム問33 王の働き」 2021年7月11日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとなり、いつも神さまと共に歩もうとする時、真の神さまでありながらも、人としてお生まれくださったイエス・キリストを信じるのが大切ですと語ってきています。神さまがみんなのことが大好きだから、みんなもイエスさまのことを信じて、一緒に歩むことを求めておられます。

イエスさまのお働きとして、一番大切なことは、十字架で、私たちの身代わりに死んでくださったことであることを語ってきています。イエスさまは、死を遂げられましたが、生き返ることにより、私たちも復活の命があることをお示しく下さいました。

このイエスさまのお働きが、祭司としてのお働きであり、私たちに聖書をお与えくださった言葉としての預言者としてのお働きを学んできました。そして今日は最後の3つめです。それが王さまとしてのお働きです。

**問33 王としてのイエスさまのお働きは何ですか。**

**答 イエスさまは、王として、御言葉と聖霊によって、私たちの救いのために、私たちを治めておられます。そして、今も悪の力とたたかい、私たちを支え、守ってくださいます。ですから、私たちは心をこめてキリストに従います。**

偉い人ということでは、総理大臣や大統領、王さまがいる国もあるかと思いますが。しかし、イエスさまの王としてのお働きは、聖書で語られています。イエスさまは、病気の人を癒やされました。嵐を静められました。イエスさまは、神さまだから、私たちではできないことでも行うことができになります。自然も、私たちの体も支配しておられます。これがイエスさまの王さまとしてのお働きです。

そして、イエスさまを信じる私たちに対して、イエスさまは、私たちを救い、イエスさまが十字架の死から復活してくださったように、私たちも天国へと導いてくださり、私たちの王として、私たちを導いてくださいます。

だからこそ、私たちは、イエスさまを神さまと信じて、いつも神さまであるイエスさまが私たちと一緒にいて歩んでくださることにより、わたしたちは天国に行くことが約束されています。

お祈りしましょう。

主なる神さま、イエスさまが王さまとして、すべてを支配しておられることに感謝します。私たちがイエスさまを神さまと信じる時、私たちも、天国に行くことが約束され、ありがとうございます。

だからこそ、私たちがいつでも、神さまを信じて、神さまと一緒に歩むことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

神さまは、みんなのことが大好きで、救いへとお招きくださっています。だからこそ、今日もみんなが教会に来て、神さまの言葉を聞くことが許されています。私たちが神さまを信じる時、イエスさまが一番大切ですよ、その中でも十字架で私たちの代わりに死んでくださったことが一番大切ですよ、ということを知りました。

このとき、イエスさまは神の子どもです。父なる神さまがおられ、子であるイエスさまがおられます。そして私たちが神さまを信じようとする時、私たちは、神さまにお祈りします。この時、神さまはどのようにして私たちの祈りを聞いてくださるのでしょうか？

ここに聖霊なる神さまが働いておられます。父なる神さま、子なるイエス・キリスト、聖霊なる神さま、神さまはこのように三つの姿を持っておられます。三位一体と言います。

今日は、聖霊なる神さまがどのような働きをするのかを考えたいと思います。

**問34** イエスさまがなしとげてくださった救いは、どのようにして私たちのものとなるのですか。

**答** 私たちは自分の力で救いを手に入れることはできません。ただ聖霊なる神さまの働きによって、救いは私たちに与えられ、私たちのものとなります。

**問35** 聖霊なる神さまは、どのようにして私たちに救いを与えてくださるのですか。

**答** 聖霊なる神さまは、私たちのうちに働いて、罪人と認めさせ、悔い改めて、イエスさまを信じるようにしてください。その信仰を通して、私たちが主イエス・キリストに結び合わせて救いを与えてください。

私たちが教会に来よう、神さまを信じよう、そのように思うのは、自分で行っているように思いますが、ここに聖霊なる神さまが働いてくださっているのですよと、ここで語られています。

そして、ここで一つ大切なことが語られています。「聖霊なる神さまは、私たちのうちに働いて、罪人と認めさせ、悔い改めて」とあります。私たちは、何でもできると思っています。しかし、神さまの前に立つ時、嘘を付いたり、きょうだいやお友だちをいじめたりすることが悪いことだということが示されます。それが罪ですね。こうしたことを、私たちが認めることができることも、聖霊なる神さまが私たちに働いてくださっている証拠ですよ、と語ります。

聖霊なる神さまは、私たちの目には見えませんが、いつでも神さまが共にいてくださり、働いてくださっています。だからこそ、いつでも、聖霊なる神さまによって、神さまにお祈りすることができます。

お祈りしましょう。今日も教会に来ることができてありがとうございます。私たちには聖霊なる神さまがみえませんが、いつでも私たちと共にいてくださり、守り、祈りを聞いてくださり、ありがとうございます。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

子どもメッセージ134 「カテキズム問36-37 私たちの救い」 2021年7月25日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは、みんなのことが大好きで、救いへとお招きくださっています。だからこそ、今日もみんなが教会に来て、神さまの言葉を聞くことが許されています。私たちが神さまを信じる時、イエスさまが一番大切ですよ、その中でも十字架で私たちの代わりに死んでくださったことが一番大切ですよ、ということを知ることができました。

神様が私たちのことが大好きで、イエスさまの十字架によって、私たちを神さまの子どもとしてくださることが示されますが、では、私たちはどのようにして、罪が赦され、神さまの子どもとなったことを知ることができたのでしょうか？

実はここに聖霊なる神様が働いてくださいます。

**問36 私たちのうちに与えられる救いとはどのようなものですか。**

**答 神さまは、イエスさまのあがないによって罪人である私たちを無罪と宣言し、すべての罪を赦し、永遠の命を与え、神さまの子どもとして受け入れてくださいます。ですから、喜びと感謝にあふれて「私たちの天のお父さま」とお呼びします。**

聖霊なる神さまがいるからこそ、私たちが教会に来たいな、聖書を読み、神さまを信じることができます。つまり神さまは、私たちが神さまを知る前から、私たちのことを知っておられ、聖霊を働かせてくださいます。

**問37 救われて神さまの子どもとされた私たちは、どのようになりますか。**

**答 神さまの子どもとされた私たちは、私たちのうちに働く聖霊によって、ますますきよくされて、神さまの御子イエスさまの姿に似せられていきます。**

私たちが、神さまを信じて、神さまの子どもとして歩むようになった時、聖書に記されているイエスさまのようになりたいと思うようになってきます。この時にも、聖霊が働いてくださっています。そして聖霊は、私たちが、聖書を読んで理解しようとする時も、お祈りする時も、私たちに働いてくださいます。

だからこそ、私たちが神さまを信じて、神さまの子どもとして歩もうとする時、私たちの目には見えないのですが、いつでも聖霊なる神さまが私たちと一緒にいてくださり、働いてくださっていることをお覚えいただきたいと思います。

お祈りします。

主なる神さま、今日も暑い日ですが、みんなを教会へとお招きくださりありがとうございます。私たちが神さまを信じて、神さまの子どもとして歩もうとする時、私たちが聖書を読んだり、お祈りしたりする時、いつでも聖霊なる神さまと一緒にいてくださることを知り、ありがとうございます。どうかこれからも、私たちが、神さまの子どもとして、喜んで神さまを信じて、教会に来ることができるようになってください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

子どもメッセージ135 「カテキズム問38 試練」 2021年8月1日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

神さまは、みんなのことが大好きで、救いへとお招きくださっています。だからこそ、今日もみんなが教会に来て、神さまの言葉を聞くことが許されています。

でも、みんなのなかには、「まだ神さまを信じていない」、「神さまって本当にいるの?」と思う人もいるかと思えます。神さまの言葉に聞かず、悪いことも行うこともあるかもしれません。

今日のカテキズムは、このような私たちでも、神さまは救ってくださるのでしょうかと問いかけます。

**問38** 弱い私たちは、試練の中で神さまを疑い、神さまに背いて、罪を犯してしまいます。そんな私たちでもほんとうに救われるのでしょうか。

**答** はい、救われます。イエスさまは、弱い私たちのために信仰がなくならないように祈り、聖霊は私たちのうちでとりなしてくださいます。神さまは、私たちを最後まで守り、必ず救いの完成へと導いてくださいます。

私たちが悪いことをしても、神さまは赦してくださいます。そのためにイエスさまが十字架で苦しみ、死んでくださったからです。そしてイエスさまは、三日目の朝に甦り、天国へと行かれ、今も生きておられます。

そして、私たちが神さまから離れようとする時も、罪を犯した時でも、イエスさまが聖霊なる神さまと共に天国で、私たちのことを覚えてお祈りしてくださいます。神さまご自身が、私たちを離されることはないため、私たちは、救われ、神さまの子どもとしての歩み続けることができます。

だからこそ、私たちは、苦しい時でも、「神さまなんかない」と思わず、神さまがこの苦しみをお覚え下さっていること、助けてくださることを信じて、祈りつづけていたきたいと思えます。

お祈りします。

神さまは、私たちは、神さまを忘れてしまうことがあります。しかし神さまは、私たちが神さまを忘れた時にも、私たちが苦しんでいる時にも、私たちのことを覚え、私たちを愛し、私たちのために祈りしてください、ありがとうございます。

だからこそ、私たちも、いつも神さまの子どもとして、神さまを覚え、神さまを信じて、神さまを頼ってお祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切なので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことが一番大切なことですよと語りますが、なぜ神さまの子どもとなることが一番大切なことなのかと言えば、天国に行って、神さまからの永遠の恵みに満たされることです。そのために、私たちが神さまの子どもとなるために、イエスさまの十字架によって、私たちの罪が赦されることが必要でした。

**問39** 救われて神さまの子どもとされた私たちは、どこをめざして歩むのですか。

**答** 天におられるイエスさまは、再び地上に来られ、最後の審判をし、天と地とを新しくし、神さまの国を完成されます。私たちは、再び来られるイエスさまを待ち望み、その日に備えつつ、希望に満ちて歌いながら御国をめざして歩みます。

今日のカテキズムでは、私たちがどこに行くのか、つまり神さまの国である天国に行くことですよと語られています。この時はいつ訪れるか分かりません。十字架の死と復活により、天に昇られたイエスさまが、再びこの世に来られた時に、最後の審判が行われ、サタンや罪がすべて裁かれ、神さまを信じる私たちは神さまの国である天国に招き入れられます。

この日を、私たちは待っているのですね。すでに地上の生命を終え、死んで行かれた人たちは、墓の中で休んでいて、イエスさまが再び来られた時に、復活の命が与えられ、そして一緒に天国に行くことができます。イエスさまが、天国に昇られてから、2000年が経ちましたが、イエスさまを信じた人たちは、皆、同じ思いで地上の生涯を終え、そして今なお、お墓の中で、イエスさまが再び来られる日を待っています。

だからこそ私たちも、「イエスさまはまだ来ない」と思って、神さまから離れるのではなく、イエスさまがいつ来てくださってもよいように、希望をもって、喜びをもって、天国が与えられる日を待ち望みつつ、神さまを信じて、教会に来て頂きたいと思います。

お祈りします。

神さまは、イエスさまが私たちのために十字架にお架かりくださり、私たちを救いへと導いてくださったからこそ、私たちは天国に入る希望が与えられています。だからこそ、いつ、イエスさまが来られてもよいように、いつも喜んで、神さまを信じて、神さまを礼拝することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

## 子どもメッセージ137 「カテキズム問40-41 死とは？」 2021年8月15日

今日は8月15日ですが、みなさんは何の日か知っていますか？ 76年前の1945年、戦争が終わった日です。その前、日本は中国やアメリカと戦争を行い、多くの人たちが死んでいきました。そして8月6日に広島に原子爆弾が落とされ、9日には長崎です。その後の8月15日に戦争が終わりました。

そのため私たちは、8月になると、平和を考えることが求められています。戦争が行われることによって、罪もない多くの人たちが死んでいきました。このようなことが繰り返されてはなりません。今でも世界にはシリアやアフガニスタンのように戦争が続いている国もあります。戦争はしてはならないことです。

神さまは、死ぬことに対して、どのように語っておられるのか、今日も、カテキズムより学びたいと思います。

**問40 私たちは死んだあと、どうなりますか。**

**答** 死んで終わりではありません。死んだあと、私たちのたましいは完全にきよめられ、天におられるイエスさまのもとに引き上げられます。体はイエスさまに結び合わされたまま墓の中で休みます。

多くの人たちは、「死んだら終わりだ」と思っています。しかし神さまはそのようにはお語りになりません。私たちの持っている「魂」は天国におられるイエスさまの所に引き上げられると語ります。

**問41 体は墓の中で永遠に休み続けるのですか。**

**答** いいえ、ちがいます。イエスさまが再び来られる時、私たちの体もよみがえらせられ、きよめられたたましいとひとつにされて、イエスさまの栄光の体と同じ姿に変えられます。私たちは、完成された御国で、完全な祝福を受け、永遠に神さまをほめたたえ、神さまを喜ぶのです。

神さまを信じて、神さまの子どもとなることは、今天国におられるイエスさまと同じようになり、苦しみも悲しみもない状態で、神さまの恵みと祝福をもって生き続けることです。神さまが、私たちのことを愛してくださり、祝福してくださっているからこそ、私たちは、今、生きる時にも、神さまと共にあることに感謝し、喜びを持って生きることが求められています。それは自分の命ばかりか、周りの人たちも同じです。けんかしたり、戦争したりすることを、神さまは決して喜ばれることはありません。

お祈りします。

主なる神さま、神さまがイエスさまの十字架により、私たちを救い、神さまの子どもとしてくださっていますことに感謝します。そして天国に希望を持つことができるようにしてください。そして、神さまがお与えくださった命を大切にして、兄弟やお友だちともけんかをしたりすることがないようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

子どもメッセージ138 「カテキズム問42-43 私たちは独りぼっち？」 2021年8月22日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことが一番大切なことですよと語っています。私たちを救い、神さまの子どもとしてくださるために、イエスさまが十字架に架かれ、死と復活を遂げてくださいました。このことを信じるのが大切です。

それでは、聖書を読んで、一人で神さまを信じていれば良いのですか？ ということをお今日は考えていきます。

**問42 神さまを信じて歩む時、私たちは独りぼっちですか。**

**答 いいえ。私たちは、聖霊によって頭であるキリストと結び合わされた、ひとつのキリストの体である教会です。神さまの子どもとしてである私たちは、国籍が天にある神さまの家族です。ですから、私たちは、教会生活を共にしながら、祈り合い、はげまし合い、手を取り合って御国への道を歩みます。**

神さまによって救われると、私たちは天国において永遠の生命が与えられます。天国では、いろんな国のクリスチャンたちが一つの家族として、一緒に集います。そして、神さまは、私たちが神さまの子どもとして、神さまの家族と一緒にになり、救いの喜びを確認する場として、教会をお建てくださいました。そして一緒に礼拝をすること、祈り合い、はげまし合い、助け合うことにより、神さまの子どもであることを、一緒に喜んで生きることが出来ます。

そして教会とはどういう所かということが、続く問43で語られています。

**問43 頭であるキリストは、ご自分の教会のために何をしてくださいますか。**

**答 頭であるキリストは、聖霊によって神さまの子どもたちと共にいて、礼拝の恵みにあずからせてくださいます。母の胸に抱かれるように、私たちが養い育て、守りつつ、救いの完成へと導いてくださいます。**

私たち皆が一緒に、教会に来ること、礼拝に集うことにより、私たちは神さまのことをよりよく知るようになり、私たちの信仰は養われ、成長していきます。つまり、私たちは、「神さまを信じる」、「神さまの子どもになる」と語りながら、神さまだけを見ていると、本当の神さまの愛を知ることはできません。神さまがお与えくださった教会の人たちと共に、教会において信仰生活を送ることにより、私たちはさらに神さまの愛を知り、神さまの子どもとしての信仰が強められていきます。

お祈りします

神さま、今日も、私たちが教会に来ることができ、ありがとうございます。神さまは、私たちが神さまの子どもとして、救い、天国に導いてくださることに感謝します。それと同時に、私たちが教会に来て、交わりをもつことにより、神さまの愛、そして天国の祝福が示されていますことに感謝します。

どうか私たちが神さまの子どもとして、喜びをもって信仰生活を送ることができるように、お守りください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

子どもメッセージ139 「カテキズム問44 教会の交わり」 2021年8月29日

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちが神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことが一番大切なことですよと語っています。私たちを救い、神さまの子どもとしてくださるために、イエスさまが十字架に架かれ、死と復活を遂げてくださいました。このことを信じるのが大切です。

そして、私たちが神さまの子どもとして歩もうとする時、教会に来ること、礼拝に出席して、教会の方々との交わりが大切であることを、前回学びました。

神さまが私たちを神さまの子どもとして救ってくださるのは、神さまが私たちを愛してくださっているからです。しかし神さまは、私たちが自分だけが救われ、神さまの子どもとして歩めば良いと語られているわけではありません。

**問44** 教会の交わりの中で養われる私たちの使命は、何ですか。

**答** イエスさまは教会に、全世界に出て行って福音を宣べ伝えること、困っている人を助けること、大地を大切に治める使命を与えられました。私たちは神さまの子どもとして、いつでもどこでもこの使命を果たします。

つまり、私たちは、すでに神さまを信じている人、教会と一緒に集っている人たちと一緒に、神さまを礼拝し、交わり、助け合い、信仰生活を送ります。しかし、それだけではありません。

まだ、神さまを信じていない人、教会に来たことのない人たちがいます。そうした人たちの中には、神さまの救いを求めている人たち、助けを求めている人たちがいます。そのような人たちに、神さまのことを伝えること、苦しんでいる人たちを助けること、神さまに祈ることが、私たちには求められています。そうしたことを行うことを、神さまは喜んでくださいます。

お祈りしましょう

神さま、神さまは私たちを神さまの子どもとして、教会へと導いてくださっているばかりか、まだ教会に来たことのない人たちをも、教会へと招いてくださっています。

そのために、私たちが、神さまのことをお友だちなどに伝えることを願っています。どうか、私たちが神さまの子どもとして喜んで教会に行っていることを、お友だちに伝えることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切なことで、最初に確認します。

**問1** 私たちにとって一番大切なことは何ですか。

**答** 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。

私たちは、神さまの子ども（クリスチャン）として、毎週、日曜日に礼拝に集うことが当たり前だと思っています。日曜日は、みんなが休みで、集まりやすいから集まるのでしょうか？ そういうことはありません。

**問45** 礼拝に集まるのは、どうして週の初めの日曜日なのですか。

**答** その日にイエスさまが復活されたからです。神さまにまねかれ、毎週この日に集まることによって、今も復活のイエスさまが聖霊において私たちと共にいてくださることを確信させてくださいます。

日曜日は、カレンダーで一番左、一週間の最初に記されています。今ではスケジュール帳などで、土曜日と共に一番右に記されているものもありますが、日曜日は一週間の一番最初の日です。

神さまが天地万物を創造された時、神さまは7日目を休まれ、安息されました。そのため、旧約の時代は、週の第七日目を、今で言う土曜日を休み、礼拝していました。しかし、イエスさまが十字架に死に、復活された日は、一週間の最初の日、日曜日の朝でした。イエスさまが十字架に死に、復活されたことこそが、私たちの救いにとって、もっとも大切なことです。そのため、イエスさまの復活以来、クリスチャンは、日曜日の朝に神さまを礼拝するために教会に集まるようになりました。

ですから、休みだから、日曜日に礼拝するのではなく、神さまを礼拝する日曜日が、休みになったのですね。ですから、日曜日が休みでなかったとしても、仕事を終わってから、神さまを礼拝することが行われてきたのです。出席者が少ないのですが、夕べの礼拝は、一日働いてきた人が、仕事を終わってから神さまを礼拝することができるようにとの思いで、行われています。

お祈りします。

神さま、イエスさまが私たちを救うために十字架に死に、日曜日の朝に、死から甦りくださり、ありがとうございます。私たちは、イエスさまが、死に打ち勝って下さったからこそ、私たちも罪の赦しが与えられ、神の救いに入れられています。

だからこそ、私たちは、日曜日毎に、イエスさまの十字架を覚えつつ、神さまを礼拝することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前により、お献げします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは、独り子であるイエスさまを十字架の苦しみを死に差し出してくださいによって、私たちを神さまの子どもとして受け入れてくださり、私たちのことが大好きで、愛していただきます。そのために、私たちは、神さまを信じて聖書の言葉を読んだり、お祈りしたりするだけではなく、教会に来て神さまを礼拝するように求められています。今日は、神さまを礼拝することとはどういうことかということと一緒に学んで行きたいと思います。

**問46 教会の礼拝で、私たちは何をしますか。**

**答 教会の礼拝で、私たちは神さまと交わり、神さまをあがめ、神さまを喜び、賛美します。聖書朗読と説教をきき、聖礼典をおいおいします。また、お祈りをし、賛美歌を歌い、信仰を告白し、献金をささげて教会の働きに仕えます。**

教会で神さまを礼拝することとは、神さまとお交わりすることです。目に見えない神さまとどのように交わるかと思うでしょうが、目に見えませんが、聖霊の働きにより、神さまは、今、私たちと一緒にいてくださいます。そして私たちが喜んで教会に来ること、神さまを礼拝することを、神さまは喜んでくださいます。

そして、私たちが聖書を読むことにより、そして説教を聞くことによって、神さまが、私たちを神さまの子どもとしてしてください、私たちが天国に行くことを約束してください。このことを、私たちは、洗礼を授かり、聖餐式に与ることによって、神さまの子どもであることを確認することができます。

そして、私たちは、罪が赦され救われていること、神さまの子どもとされていることを、喜び、神さまに感謝してお祈りしたり、喜びをもって讃美歌を歌ったり、信仰を告白します。

そして、献金を献げるのも、神さまへの感謝です。神さまは、私たちを神さまの子どもとして救ってくださるだけではなく、毎日、私たちが生活するのに必要なものを、神さまがお与えくださいます。そうしたことの感謝の表れとして献金をささげます。

そして、教会のため、神さまの働きのために、奉仕を行います。礼拝の当番をして頂いたり、掃除をして頂いたりしていますし、奏楽を弾いてくださる方々もいます。長老や執事として働いてくださっている方々も、神さまへの奉仕として行っています。

教会にきて、神さまを礼拝すること、これが一番大切なことですよ、このことをお覚え頂きたいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまが私たちを愛してください、イエスさまの十字架により私たちを救い、私たちを神さまの子どもとしてくださっていますことに感謝します。どうか、私たちが神さまの子どもとして、喜んで神さまを礼拝することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは、独り子であるイエスさまを十字架の苦しみを死に差し出してくださいことによって、私たちを神さまの子どもとして受け入れてくださり、私たちのことが大好きで、愛していただきます。そのために、私たちは、神さまを信じて聖書の言葉を読んだり、お祈りしたりするだけではなく、教会に来て神さまを礼拝するように求められています。そして私たちは今日も、礼拝に出席していますが、イエスさまはどこにおられるのかというところが、今日の間答で語られています。

**問47 今も生きておられる復活のイエスさまは、どのようにして礼拝において共にいてくださるのですか。**

**答 復活し、天におられるイエスさまは、特にご自分の恵みを与える方法を用いて、聖霊において共にいていただきます。**

イエスさまは、十字架で死を遂げられてから、3日目の朝に甦られ、しばらくお弟子さんたちと一緒にいましたが、40日後、天に昇って行かれ、今は、父なる神さまと一緒におられます。ですから、私たちは、直接、イエスさまとお会いすることはできません。

しかしイエスさまは、私たちのことを知っておられ、私たちのことが大好きです。だからこそ、イエスさまは聖霊をとおして、私たちに働きかけてくださいます。先週、礼拝において、聖書朗読と説教をきき、聖礼典をおいおいします。また、お祈りをし、賛美歌を歌い、信仰を告白し、献金をささげて教会の働きに仕えますと語りましたが、私たちが神さまを礼拝している時、イエスさまは私たちを見守り、私たちのためにお祈りして下さり、私たちが神さまによる救いが分かるように働きかけてくださいます。

ですから、私たちは今、イエスさまを直接見ることはできませんが、私たちが神さまを礼拝している今、イエスさまも共にいてくださり、イエスさまが成し遂げてくださった十字架の恵みに入れてくださっています。

お祈りします

神さま、今日も私たちが教会に来て、神さまを礼拝することができるようにして下さり、ありがとうございます。私たちは、この目でイエスさまを見ることはできませんが、聖霊をとおして、いつもイエスさまが私たちと共にいてくださり、神さまによる救い、神さまからの恵みに満たしてくださることに感謝します。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、おささげします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは、私たちが神さまの子どもとして、神さまを信じることができるように、教会に来て、神さまを礼拝することを求めておられます。

では、私たちがどのようにしたら、神さまを知り、神さまを信じることができるようになるかを、礼拝においてお示しください。それが、問48に語られています。

**問48 恵みを与える方法とは何ですか。**

**答 御言葉と礼典と祈りです。イエスさまは、特にこの三つの方法を用いて、聖霊において私たちと共にいてくださり、救いの祝福を豊かに与えてくださいます。**

御言葉と礼典と祈り、この3つについて、これから学んでいきますが、今日はこの3つが大切であることを覚えていただければと思います。

「御言葉」といってもピンと来ないかもしれませんが、「聖書」であり、聖書を語る説教、メッセージのことです。

そして「礼典」とは、「洗礼」と「主の晩餐」＝「聖餐式」のことです。

そして「祈り」です。

神さまは、礼拝におけるこれらの3つのことをとおして、神さまが私たちを救ってくださること、イエスさまがそのために十字架にお架かりになられたこと、そして、私たちが神さまの子どもとして、神さまの恵みにいつもあること、神さまがいつも一緒にいてくださることを教えてくれます。

そして、ここで大切なことは、私たちが神さまを礼拝している時、いつでも「聖霊」なる神さまがいつも一緒にいてくださり、私たちに恵みと救いの祝福をお与えくださっているということです。

私たちが神さまを礼拝するとき、いつでも聖霊をとおして、神さまと一緒にいてくださり、私たちに必要な恵みをお与えくださっていることに、感謝したいと思います。

お祈りします。

神さま、神さまが私たちを神さまの子どもとしてくださり、私たちを守ってくださっていますことに感謝します。そして、神さまが、いつも礼拝をとおして、私たちにこのことをお教えくださっていますことに感謝します。

どうか、私たちが、毎週神さまを礼拝するために、教会に来ることができるように、お導きください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちのことを愛し、大好きな神さまは、いつも私たちと一緒に歩いてくださいます。苦しいときも、悲しいときもです。そして神さまにお祈りすることができます。

この神さまは、私たちが教会において神さまを礼拝することを喜んでくださいます。そして教会において、神さまは、御言葉・礼典・祈りにおいて、神さまの恵みを、私たちに示してくださいます。このことを、先週学んできましたが、今日は、御言葉について学んでいきたいと思えます。

**問49 恵みを与える方法としての御言葉とは何ですか。**

**答 聖書の朗読と説教です。これらを用いて、イエスさまは、聖霊によって私たちに語りかけてくださいます。ですから、よく備えて礼拝に出席し、御言葉を受け入れ、心にたくわえ、毎日聖書を読み、御言葉に従うことが大切です。**

「御言葉」と言っても難しいかもしれませんが「御」という言葉が付くとき、神さまからのものであることが示されています。ですから「御言葉」とは、「神さまから与えられた言葉」です。この御言葉には、聖書の朗読と説教の二つがあることを語っています。

聖書には、私たちを救ってくださる神さまがどのようなお方であるか、そして神さまが私たちを神さまの子どもとして救ってくださり、私たちが神さまの子どもとしてどのように歩んでゆけば良いかについて語られています。聖書は非常に分厚く、読むのが大変だと思われる人もいますかと思えます。また、教会にきて読むものだと思っている人もいますかと思えます。しかし、毎日少しずつでもよいので、おうちで読んでいただきたいと思えます。難しい時にも、神さまが聖霊を通して私たちに語りかけてくださいます。

そして神の御言葉のもう一つが説教です。メッセージとも言います。先生が今、みんなの前で聖書のことを語っていることが説教ですね。聖書は一人で読んでいると、分からないこともあります。また、自分勝手に解釈して、間違ってしまうこともあります。だからこそ、教会において聖書を説教として聞くことが大切です。

ですから、毎日おうちで聖書を読んでいけば良いのだ、ということにはなりません。神さまはみんなが教会に来ることを喜んでくださいます。そして聖書を読み、メッセージを蓄えることにより、神さまが私たちを愛してくださり、いつも守り導いてくださることが示されていきます。

お祈りします。

神さま、今日も、私たちが教会に来ることができたこと、また、リモートで礼拝することができ、ありがとうございます。神さまが、私たちを御言葉である聖書と説教によって、私たちが神さまをどのように信じて、毎日の生活を送れば良いのか、お教えくださり、ありがとうございます。これからも、私たちが、礼拝に出て、聖書を読み、メッセージを聞くことで、神さまの恵みを聞くことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちのことを愛し、大好きな神さまは、いつも私たちと一緒に歩いてくださいます。苦しいときも、悲しいときもです。そして神さまにお祈りすることができます。

この神さまは、私たちが教会において神さまを礼拝することを喜んでくださいます。そして教会において、神さまは、御言葉・礼典・祈りにおいて、神さまの恵みを、私たちに示してくださいます。先週は、御言葉について学びました。神さまの御言葉である聖書と聖書について語られる説教（メッセージ）のことでした。

そして二番目が「礼典」です。

**問50 恵みを与える方法としての礼典とは何ですか。**

**答 イエスさまが礼典としてお定めになった洗礼と聖餐（主の晩餐）です。**

礼典とは、教会でもあまり用いられない言葉ですが、洗礼と主の晩餐（聖餐式）のことです。聖餐式については良く語られます。今はコロナ渦にあって、しばらく行っていませんが、それまでは月に一度行っていました。大人だけ、パンを食べ、ブドウジュースを飲んでいました。「なぜ、子どもはダメなの」と思われた方もいるかと思えます。

なぜ、大人だけなのかと言えば、「神さまを信じます」と教会で宣言した人たちだけが預かっているからです。ですから、大人の人でも神さまへの信仰を告白して洗礼を授かっていない人は、聖餐式にあずかることはできません。

つまり、教会において自分の口で信仰を告白した人は、イエスさまの十字架によって罪が赦され、神さまの子どもとされたこと、そして天国に行くことができることを信じています。そのため、聖餐式において、パンを食べ、ブドウジュースを飲むことによって、自分たちも天国に行くことができることを確認しています。

もうすでに神さまを信じているお友だちがいるならば、先生に相談してください。小学生の間はまだ早いかもしれませんが、中学生位になると、先生と一緒に神さまのことを学び、信じていることが確認できれば、赤ちゃんの時にすでに洗礼を受けている人たちは、信仰告白式を行っていただくことにより、聖餐式と一緒にあずかっていただくことができます。みんながそのように、神さまを信じて、神さまの子どもとして、聖餐式にあずかることができるようになることを、先生は願っています。

お祈りします。

神さま、私たちは、言葉だけでは、神さまの救いが分からなくなることもあります。しかし、洗礼にあずかること、聖餐式においてパンを食べ、ブドウジュースを飲むことによって、神さまの子どもとされていることを確認することができます。どうか、ここに集っているみんなも、神さまの子どもとして、信仰を告白して、一緒に聖餐式にあずかることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神は、私たちを神さまの子どもとして、愛してくださっています。しかし神さまは、目に見えません。本当にいるのだろうかと思う人もいるかと思えます。

聖書やメッセージで語られるだけでは、神さまが本当にいるのか、ボヤッとして、信じることができないかもしれません。そのため、神さまは、洗礼を授かることにより、しるしをお与えくださいました。そのことを、今日は考えていきます。

**問51 洗礼とは何ですか。**

**答 父・子・聖霊なる神さまの御名によって行われる水の洗いです。洗礼は、イエスキリストと結び合わされ、罪赦され、永遠の命が与えられ、神さまの子どもとされることを示す礼典です。**

洗礼は水の洗いであると語られています。ここにいる多くの人たちは、赤ちゃんの時にお父さんやお母さんの信仰によって洗礼を受けています。

**問52 信者の子どもたちにも洗礼をさずけるのはどうしてですか。**

**答 信者の子どもたちも、神さまの恵み深い契約に従って教会の一員だからです。親と教会には、その子が自分の口で信仰を告白するまで導く責任があります。**

洗礼を受けるということは、「あなたは神さまの子どもですよ」。「あなたの罪は、イエスキリストの十字架によって赦され、神の子どもとしてふさわしい者ですよ」と宣言されていることです。洗礼を受けることを、契約・約束することであると語られます。つまり、神さまがあなたを神の子どもとしますと宣言してくださったのです。今では手紙を書くことも少なくなりましたが、手紙を出すとき、切手を貼り、郵便局で消印が押されます。確かに郵便が出されましたよというしるしが押されます。

洗礼も同じです。あなたは確かに神さまの子どもですよと、神さまが認めてくださいます。神さまが結んでくださる約束は、私たちが「いやや」と言っても破棄されることはありません。神さまは、必ず約束を果たし、私たちを神さまの子どもとして、天国へと導いてくださいます。

だからこそ、みんなは、神さまがいることを、聖書を読み、神さまがみんなのことを愛し、救ってくださった方であることを、読み取り、受け取っていただきたいと思えます。

そして、自分の口で、信仰を告白する時が来るように求めてほしいと思っています。

お祈りします。

神さま、みんなをいつも守り、教会へと導いてくださっていますことに感謝します。子どもたちが、洗礼を授かっていることを覚え、神さまがいることを意識することができるように、信じることができるように、お導きください。

このお祈り、イエスキリストのお名前によってお献げします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神は、私たちを神さまの子どもとして、愛してくださっています。そして神さまは、イエスさまの十字架によって、私たちを救い、神の子どもとしてくださいました。

しかし神さまは、目に見えません。本当にいるのだろうかと思う人もいます。そのため神さまは、ただ言葉である聖書、説教だけではなく、目に見えるかたちで、私たちがイエスさまによる救い分かるようにしてくださいました。それが聖餐式で行われる主の晩餐です。カテキズムでは、次のように教えています。

**問53 聖餐（主の晩餐）とは何ですか。**

**答 イエスさまが命じられたとおりに、パンとぶどうジュース（ぶどう酒）を用いて行われる礼典です。それにより、イエスさまの十字架でさかれた肉と流された血によってなしとげられた救いを覚えます。聖霊によってイエスさまと結び合わされて、罪の赦しと永遠の命の祝福に養われます。神さまの子どもたちといっしょに祝いながら、再び来られるイエスさまを待ち望みます。**

**問54 だれでも聖餐（主の晩餐）にあずかれますか。**

**答 いいえ、幼児洗礼を受けていても自分で信仰を告白していない人、また、洗礼を受けていない人は、あずかれません。私たちは、一日も早くその人たちが聖餐（主の晩餐）の祝いにあずかることができるように祈ります。**

コロナ禍にあって、しばらく聖餐式を行っていませんでしたが、11月から再開します。パンを食べたいな、ブドウジュースを飲みたいと思う人もいます。しかし、洗礼を受けていない人、幼児洗礼を受けていてもまだ信仰告白をしていない人は、聖餐式に与ることができません。なぜならば、なぜパンを食べるのか、なぜブドウジュースを飲むのかを理解していない、あるいは信じていないからです。

イエスさまは、逮捕され、十字架に架かれる前の夜、12人の弟子たちと共に、最後の晩餐（食事）をとっていました。このときに、イエスさまは、パンについて「これはわたしの裂かれた体」のことであること、ブドウ液に関しては「これはわたしの流された血である」と語られました。つまり、聖餐式でパンを食べ、ブドウジュースを飲むのは、イエスさまが十字架に架かれて、死を遂げられたこと、死から三日目の朝に甦られたことが、私たちの罪の赦し、救いのためであったことを確認するためです。そのことに感謝して、聖餐式に参加するのです。ですから、まだ、聖餐式に参加できない人たちも、信仰告白して、そして洗礼がまだの人は洗礼を授かって、一緒に聖餐式に参加できる日がくることを、祈っています。

そして聖餐式にはもう一つ大切なことを教えています。それは、これは非常に小さな食事ですが、一緒に食事をとっています。イエスさまは、天国において、神の子であるクリスチャンが、みんなでこの食事をとることになることを教えてくださいました。神さまを信じて、洗礼を受けた人は、みんな、天国に行くことができます。そのことを、みんなも信じて、洗礼・信仰告白をしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、聖餐式のパンとブドウジュースによって、私たちがイエスさまの十字架を覚えることができるようにしてください、ありがとうございます。ここにいるみんなも、イエスさまの十字架を信じて、この聖餐式と一緒に参加できる日がくるように、お導きください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

今日は祈りについて学びます。

**問55 恵みを与える方法としての祈りとは何ですか。**

**答 イエスさまは、祈り求める者に聖霊を与えることを約束されました。復活のイエスさまは、とくに祈りによって、聖霊において私たちと共にいてくださいます。ですから、いつでもどこでも祈りながら御国への道を歩んでいきます。**

お祈りをするとき、私たちは、手を組んで、目をつぶってお祈りします。言葉に出して祈る時もあれば、一人で祈る時は、黙ったまま祈る時もあるかと思えます。一人で目をつぶって、声を出して祈っていると、独り言をしゃべっているように見えるため、人前ではお祈りしたくないと思うかもしれません。

しかし、苦しいとき、とっさに、「神さま、助けてください」とお祈りすることはありませんか？

お祈りをするとは、なんだか自分一人の行いのように思われますが、しかし、言葉に出すか、黙ったままであるかは違いがありますが、言葉を話します。このとき、神さまは、聖霊をとおして、ちゃんと聞いていてくださいます。そして聞くだけではなくて、その約束してくださいます。それは苦しみをなくしてくださる場合もあれば、もう少し我慢なさい。そうすれば、元気になるから、というときもあるかと思えます。別の答えになるかもしれません。

ここで大切なことは、神さまがいてくださり、私たちの祈りを聞いていてくださっていること、そして神さまは、私たちにとって、一番すばらしい答えを準備してくださっているということです。

お祈りしたけれども、「祈りが適えられなかった」とか、「悪い結果になった」という場合もあるかもしれません。しかし神さまは、一番すばらしい答えを準備してくださいます。それは、後からでなければ、なぜこうなったのか、理解できないこともあります。もしかすると、5年も10年も経ってから理解することができるかもしれません。

つまり神さまは、みんなのことが大好きだからこそ、一番すばらしい答えをお与えくださることをお覚えいただきたいと思えます。

「あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。

魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。

このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」(マタイ7:7~11)とお語りになります。

お祈りします。神さま、いつでも神さまが私たちと一緒にいてください。そして私たちの祈りをいつでも聞いてください。私たちが神さまを信じて、いつでも神さまにお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

神さまは私たちを救い、神の子どもとしてくださいました。私たちは、礼拝に与ることにより、御言葉のメッセージ、主の晩餐（聖餐式）、お祈りをする事により、神さまが共にいてくださり、私たちの救い主であることをお示しくくださいます。

神さまは私たちを救い、天国へとお招きくださるのですが、では、私たちは、神さまを礼拝すること以外に、何かすることがあるのでしょうか？ そのことが、今日のカテキズムにおいて語られています。

**問56 神さまの子どもとされ、神さまと共に歩む私たちに、神さまが求めておられることは何ですか。**

**答 感謝することです。私たちは、感謝のうちに、神さまを愛し、家族や友だちを愛し、神さまの造られたものを大切に、祈りつつ歩むのです。**

**問56 では、感謝のうちに、愛し、祈りつつ歩む道を、どのように知ることができますか。**

**答 聖書を通してです。**

カテキズムは「感謝することです」と語ります。これはどういうことかと言えば、多くの人たちは、自分たちの力によって生きています。コロナの中にあっても、ワクチンを開発し、治療薬を開発し、そして元の生活を取り戻したのだと思っています。しかし、神さまが、研究している人たちに知恵を与え、ワクチンや薬を発明させてくださるひらめきをお与えくださらなければ、私たち人間の力によって何も解決できなかったのです。

勉強することも、努力することも、自分で結果をだすために行っているかと思いますが、神さまが共にいてくださり、知恵や賜物・能力をお与えくださらなければ、何も結果を残すことはできません。

だからこそ、私たちは、どんなときでも、神さまが共にいてくださり、助けてくださった、力をお与えくださったことに感謝して、神さまを誉め称えるのです。

私たちが神さまに感謝することができた時、私たちは、神さまを愛して神さまを礼拝することができ、そして教会の人たち、家族・友達を愛して、大切にすることができます。そしてどんな時でも、神さまに委ねてお祈りすることができます。

どんな時でも神さまと一緒にいて、助けてくださいます。だからこそ、毎日、神さまに感謝して、お祈りしていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、今日も私たちが教会に来て、神さまとお会いすることができ、ありがとうございます。どんな時でも、神さまが私たちと一緒にいてくださり、助け、ささえてくださいますことに感謝します。だからこそ、いつでも神さまにお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

このことをわたしは毎週、語っています。私たちが神さまの子どもとして、天国が約束されているのですが、神さまがどのようにして私たちを神さまの子どもとしてくださったのかということを確認することが、非常に大切です。

つまり、私たち人間は、罪を犯し、神さまから離れていきました。神さまから離れるということは、死にゆく者、滅び行く者であることを意味しています。しかし神さまは、私たちに救い、神の子としてくださいました。天国における永遠の生命をお与えくださいました。

このとき神さまは、私たちを滅びから救い出すために、罪の罰を、独り子であるイエスさまのおゆだねくださいました。それが人としてお生まれになられたこと、そして十字架で苦しみ、死に、陰府に下り、死から甦ってくださったことです。

独り子を、本当の苦しみへとお渡しくくださったことにより、神さまは私たちに対する愛をお示しくくださいました。神さまから愛された私たちは、神を愛する者として生きる者となります。どのようにして神さまを愛するのか、そのことが、今日のカテキズムに語られています。

**問58 神さまが聖書を通して示された愛の生活の規準はどこにありますか。**

**答 「十戒」の中にあります。**

神さまに愛された者として、神さまの子どもとして、私たちは、毎日の生活において、神さまの子どもとして生きることができます。どのようにしてかということが、「十戒」に語られています。

十戒には、「あれをしてはならない」、「これをしてはならない」と語られており、嫌だなと思われるかもしれませんが、しかし、私たちが愛してくださっている神さまが、私たちが神さまから離れないように、そして神さまの愛を行って生きることができるようにお語りくださっています。そうすることによって、私たちも、神さまによって守られ、罪を犯すことなく、生きることができるようになります。

これから十戒の一つひとつを学んでいきますが、このとき、神さまの愛を理解していただけだと思います。

お祈りします

神さま、神さまが私たちが愛してくださり、神さまの子どもとしてくださっていますことに感謝します。そして私たちが神さまから離れ、罪を犯すことがないように、十戒をお与えくださり、ありがとうございます。どうか私たちが神さまの愛を知り、神さまの御言葉、十戒に従った歩みを行っていくことができるように、お導きください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとして生きようとする時、神さまは私たちを愛していただき、喜んでくださいます。そのため、神さまは私たちが神さまから離れることなく、罪から守ってくださいます。このときに神さまが私たちにお教えくださったのが「十戒」です。

私たちが、十戒を普通に読むと、「～してはならない」と言う言葉が繰り返されており、「きゅうくつだな」、「大変だな」と思うかもしれません。しかし、神さまがこのような言葉を、私たちにお教えくださったのには、理由があります。

**問59 キリストが教えてくださった「十戒」の要約とは、どのようなものですか。**

**答 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」。また「隣人を自分のように愛しなさい」です。聖書の全体はこのふたつにまとめられています。**

ここには、十戒の要約が教えられています。最初は、私たちのことが大好きで、愛して下さっている神さまを、私たちも愛し、親しみ、信じること、礼拝することを求めています。この最初のことが、第一戒から第四戒において語られています。それぞれの言葉については、これから学んでいくこととします。

続けて「隣人を自分のように愛しなさい」と語られています。まず「隣人」とは誰ですかということを考えなければなりません。ルカ福音書10章には、良いサマリア人のたとえが記されています。ユダヤ人はサマリア人が罪人として嫌っていました。あるユダヤ人が旅をしていた時に、追い剥ぎに襲われ苦しんでいました。このとき、ユダヤ人である祭司もレビ人も、見て見ぬふりをして遠回りをしました。しかし、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人は、追い剥ぎにあった人を介抱し、そして助けました。宿屋に連れて行き、泊まる時の宿賃も払いました。

このとき、イエスさまは、「だれがこの人の隣人ですか」と尋ねられました。このサマリア人ですよね。私たちの「隣人」とは、家族・友だち・教会の人たち・近くの人たちだけではありません。日本人も外国の人たちもです。病気の人、体に障害を持っている人もです。そうした人たちをみんな愛することです。

愛するとは、知ること、理解することです。そうすると、苦しんでいる人のために助け、祈ることが求められます。何もできないかもしれません。しかし、一緒に苦しみ、一緒に悲しむこと、祈ること、そうしたことが求められるのではないのでしょうか。

十戒を行うとは、「～ねばならない」のではなく、相手のことを知り、相手の苦しみを受け入れ、共に心を通わせることではないのでしょうか。

お祈りします。 神さま、神さまが私たちを愛してくださり、神さまの子どもとしてくださり、ありがとうございます。どうか、私たちも、苦しんでいる人たち、悲しんでいる人たちのことを愛して、理解し、一緒に祈ることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムより、神さまを信じることで大切なことを学んでいます。問1は大切ですので、最初に確認します。

**問1 私たちにとって一番大切なことは何ですか。**

**答 神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです。**

私たちが神さまの子どもとして、神さまと一緒に歩むために、神さまは私たちに十戒をお与えくださいました。「～ねばならない」と繰り返し語られ、「めんどくさい、つまらない」と思われるかも知れません。しかし神さまは、「このことを守らなければ救わない、神さまの子どもとしない」と語られたのではありません。なぜならば、神さまは私たちがこれらのことを完全に守ることなどできないことをご存じだからです。

ではなぜ、神さまは私たちに十戒をお与えくださったのでしょうか。十戒の前書きを読むことにより、明らかになります。

**問60 「十戒」の前書きは何ですか。**

**答 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」です。**

**問61 「十戒」の前書きは私たちに何を教えていますか。**

**答 神さまは、ご自分の民をエジプトから救い出してくださいました。また、イエスさまによって私たちが罪から救い出してくださいました。それによって、ご自分が恵み深い神さまであることをまずお示しになり、私たちに愛と服従をお求めになっていることを教えています。**

十戒は、イスラエルがエジプトから救い出された時に、シナイ山に登ってきたモーセに与えられました。つまり、「十戒を守れば救われる」のではなく、「救われたイスラエルに与えられた十戒」です。これはどういうことかと言えば、先程も語りましたが、私たちは十戒を完全に守ることはできませんし、神さまもそのことをご存じです。

しかし、私たちが神さまの子どもとして生きていこうとするとき、様々な罪の誘惑、誘いがあります。そのため、私たちが罪の誘惑に負けて、罪を犯し、神さまから離れていくことがないように、その基準を十戒によってお語りくださいました。

ですから、「十戒を守らなければならない」のではなく、「十戒を守ることによって、罪から守られ、神さまの子どもとしての歩みを続けていく」ことができるのです。神さまは私たちが愛してくださっているからこそ、イエスさまをこの世にお送りくださいました。3週間後にクリスマスをお迎えします。今日からそのことを覚えるアドベント（待降節）に入ります。神さまが私たちが愛してくださり、独り子のイエスさまをお与えくださいました。だからこそ、私たちが神さまを愛し、イエスさまのお誕生日であるクリスマスと一緒に祝いしたいと思えます。

お祈りします。神さま、私たちが愛してくださり、神さまの子どもとして生きるために、十戒をお与えくださり、ありがとうございます。また、私たちの救いのために、イエスさまをお与えくださり、ありがとうございます。みんなで、クリスマスをお祝いすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

クリスマスがありましたので、しばらくカテキズムの学びから離れていましたが、今日からカテキズムの学びに戻ります。主なる神は、エジプトを脱出したイスラエルに、十戒をお与えくださいました。十の戒めと記され、守らなければならないものと思ってしまうのですが、十戒を守ることによって救われるのではなく、神さまによって救われた者に、十戒が与えられたということを語ってきました。

つまり私たちが十戒を学ぶとき、十戒が与えられた目的を忘れてはなりません。主なる神は、私たちが十戒を、行いにおいて、言葉において、心の中で、完全に守ることなどできないことをご存じです。守ることができないからこそ、神さまによる罪の赦し、キリストの十字架に頼らなければならないのです。

その上で、十戒が与えられることにより、何が罪であり、神さまから離れることであるか、私たちにある誘惑であるを、私たちは十戒から知ることができます。

今日は、最初の第一戒を学ぶこととします。何でも最初は大切です。

問62 第一戒は何ですか。

答 「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」です。

問63 第一戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 ただひとりのまことの神さまだけを、私たちの神さまとしてあがめ、信頼し、心から礼拝することを求めておられます。他のどんな偶像も神さまとして礼拝してはいけません。これがもっとも大切な戒めです。

神さま、聖書において語られている主なる神さま、御父・御子・御霊なる三位一体の神さまお一人です。日本では神社やお寺にいろいろな神があります。八百万の神と言われます。人間や動物が神になっていますが、そうしたものではなく、聖書によって記されている主なる神だけが、生きて働いておられる神であり、私たちが罪から救い、天国へと導いてくださる神さまです。

神さまは、私たちのことが大好きだからこそ、いつでも私たちと一緒にいてくださいます。そして、私たちが神さまを礼拝することを喜んでくださいます。私たちが神さまにお祈りするとき、祈りを聞いてくださいます。答えをお与えくださいます。

日本にある他の神は、生きていませんので、お祈りしても答えてくれません。

「神さまなんかいない」と思っている人たちもいます。「神を信じる人は、古い、弱い人だ」と思っている人もいます。しかし、聖書に記された主なる神さまは、いまも私たちと一緒にいてくださいます。私たちを守り、救いへと導いてくださいます。そして天国における永遠の生命をお与えくださいます。

私たちは、主なる神さまを信じることによって、本当の喜びに生きることができます。

お祈りします。神さま、日本にはいろいろな神がいますが、生きて今も私たちと共にいてくださり、私たちを守り、救ってくださる神さまは、三位一体の主なる神さまだけであることが示されました。どうか、私たちが今年も主なる神さまを信じ、神さまを礼拝していくことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムにおける学びも十戒に入りました。今までにも語ってきていることですが、大切なことですので、今日も語ります。十戒は十の戒めと書きますが、これを守れば救われるわけではありません。神さまは奴隷であったイスラエルを救い出した後に、モーセをとおして十戒をお与えくださいました。それは、神の民が、いろんな罪の誘惑に遭います。そのため、そうした誘惑にだまされないように、守られるようにお語りくださいました。ですから、私たちが十戒を学び、十戒に従って生きる時、神さまは私たちの信仰をお守りくださいます。

先週第一戒を学びました。第一戒は一番大切です。第一戒は、「あなたは何者をも神としてはならない」と語られ、主なる神さま、父・子・聖霊の神さま以外に、生きて働く神さまはいませんよと、語られていました。新年を迎え、多くの日本人が初詣に行きました。しかし、生きて働いておられる神、私たちの祈りを聞き届けてくださる神は、他にはいません。この第一戒が一番大切なことですが、第二戒も大切です。

問64 第二戒は何ですか。

答 「あなたはいかなる像も造ってはならない」です。

問65 第二戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 まことの神さまは目に見えない霊であるお方です。神さまは、聖書に従い、正しいしかたでご自分を礼拝することを求めておられます。

神さまは、天地万物を創られ、私たち一人ひとりに命をお与えくださいました。ですから神さまは、ご自身では肉の体を持つことはなく、人間が造った像の中に留まるようなお方ではありません。そのため、私たちは、カトリック教会にあるようなマリア像や、聖画が描かれているステンドグラスなどを、神として拝むようなことはしません。

神さまは目に見えない霊です。そのため、「本当に神がいるの？」と思われる人たちも多いことかと思えます。しかし、聖書をとおして神さまが生きて働いておられるお方であること、イエス・キリストとして人としてお生まれになられ、私たちを救うために十字架にお架かりになられたこと、そして十字架の死と復活の後、天に昇られたことを、私たちは知っています。神さまは、天において今も生きておられるからこそ、私たちはお祈りすることができます。そして、生きて働く神さまがおられるからこそ、私たちは天国の希望、そして苦しみも悲しみもなく、すべての神の民が一同にあつまる天国における永遠の生命に希望をもって生きることができるのです。

お祈りします。

神さま、日本にはいろんな宗教があったり、神さまの存在を否定したりする人たちがいます。どうか、そうした中でも、私たちが、主なる神さまだけを信じて、神さまを礼拝することができるように、おまもりください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお献げします。 アーメン

カテキズムにおいて十戒を学んでいます。神さまは、イスラエルの人たちのことも、そしてここに集まっている私たち、そしてみんなのことが大好きだからこそ、神さまから離れないようにするために、十戒をお与えくださいました。十戒を守ることによって、私たちは、罪の誘惑から守られ、神さまから離れることはなくなるからです。

最初の第一戒では、主なる神さま以外に神さまはいませんよ、だまされてはいけません。と語られていました。そして第二戒では、神さまは人間が作った像の中にはいませんよ、神さまがみんなに生命を与え、多くの恵みをお与えくださる方だから、神さまを小さな像に閉じ込めてはダメですよと語られていました。

そして今日は第三戒です。

問66 第三戒は何ですか。

答 「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」です。

問67 第三戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 神さまのお名前とは、神さまご自身のことです。ですから、神さまは、ご自身をおそれ敬い、愛と親しさをもって、ご自分の名前を呼び、用いることを求めておられます。

小さなお友だちには難しいですが「名は体を表す」と語られます。みんなも、自分の名前でいじられるのは嫌だと思えます。「そんな名前では呼ばないで」と言いたくなるかと思えます。先生の名前は「つじゆきひろ」と言いますが、子どもから「ゆきひろ」と呼び捨てにされたら、やっぱり嫌ですよ。

神さまも同じです。神さまは、みんなのことが大好きだから、愛をもって、親しみをもって呼んで欲しいと語っておられます。ですから、「主なる神さま」と丁寧に呼んだり、「神さま」と呼ぶだけではなく、「アッパ（お父ちゃん・パパ）」と呼んで良いですよ、お語りくださっています。それだけ神さまは、みんなと親しい方ですよとお語りくださっています。

そのため、神さまのことを否定したり、軽蔑すること、あなどることなどすると、神さまは悲しまれます。だからこそ、みんなも神さまのことが大好きになり、親しみをもって、神さまに呼びかけていただきたいと思えます。

神さまは、みんなが呼びかけ、お祈りにお願いする時、神さまは喜んでくださり、祈りの答えをくださいます。

お祈りしましょう。

神さま、私たちを救い、多くの恵みをお与えくださり、ありがとうございます。神さまが私たちを愛してくださり、大好きなように、私たちも、神さまが大好きになるようにしてください。

そして、いつでも、神さまに親しみを込めて、呼びかけ、お祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、私たちのこと、みんなのことが大好きだからこそ、滅びることがないように、救って下さいました。そして、神さまの子どもとされた私たちが、罪の誘惑、悪い人たちにだまされることがないようにするために、十戒（10の戒め）をお与え下さいました。10の戒めであり「守らなければならないもの」と思っている人たちが多いのですが、神さまは、イスラエルの人たちを奴隷の状態から救い出して下さった時にお与え下さいました。だからこそ、私たちは神さまに救われていることに感謝して、守ればよいのです。今日は、第四戒です。

問68 第四戒は何ですか。

答 「安息日を心に留め、これを聖別せよ」です。

問69 第四戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 私たちの安息日は、キリストが復活された日曜日です。神さまは、この日を主の日として、特別に取りわけ、教会で礼拝をささげ、救いの祝福を喜び、きよく休んで六日間の歩みに備えることを求めておられます。安息日の恵みにはげまされて、私たちは御国を目指して神さまと共に歩みます。

「安息日」、みんなにとっては「日曜日」のことですが、この日を、神さまは私たちに2つのことを教えてください。

一つ目は「安息日」、「安らかに息をする日」と書かれていますが、体を休める日のことです。一週間の内、六日間は働いても、一日は休みなさいよと語られています。昔は奴隷もいましたが、奴隷だからといって、主人は、休みなしで働かしてはダメですよと語られているのです。私たちが生きるのに、体を休めることも大切なことです。

そして二つ目のことは、「聖別」する。つまり、神さまのために時間をとって、神さまを礼拝することを求めておられます。なぜならば、私たちは神さまによって救われたことを喜んでいるわけですが、一週間に一度、教会に来ることによって、神さまから与えられている救いの恵みを忘れないように、とお語りになっています。そうでなかったら、私たちはすぐに忘れてしまうからです。

ですから、日曜日に教会に来ること、礼拝に出席することが「そうしなければならない」ことだと思うよりも、神さまにお会いできる喜びで、集って頂ければうれしいです。だからこそ、教会が楽しい所となるようにしなければならないと思っています。

また、教会に来ることができない日もあるかと思います。家でYouTubeで見ることができても、それでもできない時、神さまに「教会に行けなくてごめんなさい。礼拝にあずかれなくてごめんなさい」とお祈りするとき、神さまは喜んで下さいます。

ですから、日曜日にイイヤ教会に来るのではなく、私たちを救って下さった神さまとお会いする所と思って、感謝して、喜んで、教会に来て、神さまを礼拝して頂きたいと思えます。

お祈りします。神さま、今日も神さまを礼拝することができ、ありがとうございます。日曜日が、教会に行かなければならない日ではなく、喜んで神さまとお会いできる喜びのひとつとなるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

問70 第五戒は何ですか。

答 「あなたの父母を敬え」です。

問71 第五戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 神さまのみをあがめ、聖書に従い、父と母を心から敬い、先生や目上の人たちを尊敬し、友だちや年下の人たちも大切にすることを求めておられます。神さまは、そのような人に祝福を豊かに与えると、特別に約束してくださっています。

「父母を敬いなさい」と語られると、きょうだいやお友だちとは仲良くしなくても良いのか、と思ってしまうのですが、そうではないのですね。カテキズムでは「父と母を心から敬い、先生や目上の人たちを尊敬し、友だちや年下の人たちも大切にすることを求めておられます」と語られています。「一つひとつ書いてくれないと分からない」と思われるかもしれませんが、神さまは短い言葉で、多くのことを代表して語られています。日本語では「一を聞いて、十を知る」という言葉があります。神さまは、多くの人たちのことを愛するように求めておられます。

では隣人とはどこまで広がるのだろうかと思います。お友だちか、教会の人もか、日本人か、そうではないのですね。「隣人（となりびと）」と書きますが、すべての人を愛することを神さまは求めておられます。聖書には「良きサマリア人のたとえ」が記されています（ルカ10:25～37）。一人の旅人が強盗に襲われ、持ち物を奪われ、そして歩けないけがを負いました。この時、ユダヤ人である祭司やレビ人は、見ないふりをして、通り過ぎて行きました。しかし、当時、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人は、彼を助け、宿屋まで連れて行き、そして宿泊代・治療費も払って行きました。イエスさまは、「このサマリア人こそが、この人の隣人だ」とお語りになりました。

隣人とは、すべての人です。そうした人たちを愛することを神さまは求めておられます。苦しんでいる人、悲しんでいる人を覚えて、助け、祈ることが大切です。それが十戒が語る「父母を敬え」ということです。

(お祈り)

神さま、自分のことばかりではなく、家族やお友だち、まわりの人たちのことを大切に思い、助けたり、祈ったりして、愛することができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

そして第二の板の最初の第五戒で「父母を敬いなさい」と語られていましたが、家族や友だち、教会の人たちだけではなく、日本中の人たち、外国の人、文化の違う人たちみんなを愛することが求められていました。

そして今日は、第六戒を学びます。

問72 第六戒は何ですか。

答 「殺してはならない」です。

問73 第六戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 神さまは、人間をご自分のかたちに似せて造られたので、他の人々の命も、自分の命も大切にすることを求めておられます。人をにくむこと、無視すること、いじわるをすることは心の中で人殺しです。私たちは、自分のように他の人をも愛します。

「殺してはならない」と語られても、この中に実際に人を殺した人を殺した人はいないかと思えます。しかし、隣人を愛する時、傷つけること、憎むこと、無視すること、意地悪をすることのすべてが、その人を殺しているのと同じですよと語ります。セクハラ、パワハラといったハラスメントという言葉が用いられますが、このように人をいじめることも「すべて、その人を殺しているのと同じことですよ」と語られています。

ですから、人を殺さなければ良い、傷つければ良い、ということではなく、誰でも愛するように、神さまは願っておられます。ですからイエスさまは、このようにもお語りになっています。

「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と（マタイ5:44）。

嫌いな人はどうしてもいるかと思えます。でも、そのような人も、神さまは愛してくださっています。だからこそ、私たちも、怒ったり、憎んだりするのではなく、その人のためにお祈りし、優しく話し合うことを、イエスさまは喜んでくださいます。

お祈りします。

イエスさま、私たちはどうしても嫌な人がいると、怒ったり、憎んだりしてしまいます。しかし神さまは、そのような人たちも愛して、その人のために祈り、優しくすることを喜んでくださいます。どうか私たちも、どのような人たちも、愛して、優しくすることができますようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

問74 第七戒は何ですか。

答 「姦淫してはならない」です。

問75 第七戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 男の人と女の人との関係は、神さまの創造の祝福です。神さまは、思いと言葉と体をきよく保つことを求めておられます。また、結婚生活においては、結婚の誓いを守り、きよい家庭を築くことを求めておられます。

神さまが、男の人と女の人をつくられたのは助け合うためです。神さまが、最初の人、アダムさんを作られた時、まだ他に人はいませんでした。女の人もいませんでした。この時に神さまは、「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」とお語りになり、動物や鳥などを連れてこられました。アダムにとっては自分に合う助ける者を見つけることができませんでした。

主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。そして二人は一体となった、夫婦となったと語られます。

男の人と女の方は違います。どうしても男の人の方が力があります。支配したり、いじめたりします。しかし、神さまはそのようなことは喜ばれません。男の子が女の子を好きになること、女の子が男の子を好きになることは、素晴らしいことです。互いに助け合っていかなければなりません。

この時、「好きになる、愛する」とは、相手が嫌なことを行ってはいけません。「愛する」とは、相手のことを大切に思うことです。

そして、男の子は女の子のこと、女の子は男の子のことが分からないこともあると思います。違うことを受け入れることも大切です。

お祈りしましょう。

神さまは、男の人であるアダムさんの助ける人として、女の人エバさんをお与え下さいました。互いに助け合い、愛し合うためです。男の人と女の人には違いがあり、分からないこともあります。しかし、互いに助け合い、また相手を大切にすることができるように、してください。 イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

問76 第八戒は何ですか。

答 「盗んではならない」です。

問77 第八戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 私たちの持ち物は、私たちの体もお金も時間も、すべて神さまからの贈り物です。神さまは、それらを感謝し、ふさわしく管理し、神さまの栄光のために用いることを求めておられます。神さまの贈り物を自分勝手に使ったり、他の人のものを盗んだりしてはいけません。

「他人のものを盗んではならない」当たり前ではないかと思えます。なぜでしょうか？カテキズムは、「私たちの持ち物は、私たちの体もお金も時間も、すべて神さまからの贈り物です」と応えています。驚きではないでしょうか。私たちは、「自分のものは自由に用いて良い、しかし他人のものは盗んではダメですよ」と教えられてきたのではないのでしょうか。私たちのものばかりか、私たちの体も、お金も、そして時間までも、神さまからの贈り物です。これは、贈り物ですから、自由に用いて良いのです。しかし同時に、神さまから与えられたものとし、大切に用いることが求められます。神さまに喜んでもらえるために用いることが求められます。

そうであるならば、お友だちなどがもっておりものを、うらやましく思ったり、欲しいなど思うことがあっても、盗んだりしてはいけませんね。神さまが悲しまれます。そして、本当にそれが欲しいのであれば、神さまに祈り求め、本当に必要ならば、神さまは喜んでお与えくださいます。

ですから、神さまが自分にお与えくださっているものを確認することから始めれば良いかと思えます。もの、賜物（能力）、性格（優しさ・几帳面さ・細やかさ……）、家族やお友だち……、すべて神さまがお与えくださっています。これらのものを、感謝し、大切に用いる時、神さまは喜んでくださいます。そして、この時、お友だちをも大切にすることができるようになるかと思えます。

お祈りします。神さま、私たちは、「あれが欲しい、これが欲しい」と思い、お友だちのもっているものがうらやましくなることもあります。しかし神さまは、私たちが必要なものをすべてお与えくださることに感謝します。ありがとうございます。また、私たちが本当に必要なものをお与えくださいます。だからこそ、どんな時にも、神さまに感謝し、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

今までは、⑤父母を敬いなさい、⑥殺してはならない、⑦姦淫してはならない、⑧盗んではならない、と具体的なことを行ってはならないことが語られていましたが、第九戒では異なります。

問78 第九戒は何ですか。

答 「隣人に関して偽証してはならない」です。

問79 第九戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 神さまは真実な方ですから、私たちにも真実をお求めになります。悪いうわさを流したり、うそをついて、友だちを傷つけてはいけません。いつも愛のうちに真実を語りましょう。

「偽証」とは難しいですが、「うそをついてはいけませんよ」と語られています。日本語には「うそは泥棒の始まり」という言葉もあります。うそを付くことにより、お友だちのものを盗んだり、お友だちを傷つける（殺す）ことと同じなんだと言われています。お友だちが嫌がることを行ってはならないのと同じように、お友だちが嫌がることを語ることも同じように、罪なんだと、神さまはお語りになっています。

神さまは、みんなのことが大好きだからこそ、みんなも神さまのことを愛し、礼拝し、お友だちとも仲良くするように言ってくださっています。私たちは、神さまがお語りになる御言葉・十戒を守ることによって、罪の誘惑から守られ、神さまの子どもとして、本当の喜びを求めて歩み続けることができるのです。

お祈りします。

神さま、私たちはどうしても嘘をついたり、家族の人やお友だちを傷つける言葉を語ってしまいます。こうしたことが、言った人だけではなく、神さまをも悲しませることが語られました。どうか、これからは、神さまや家族の人、お友だちが嫌がったり、悲しませるようなことを語ることがないようにしてください。

そして、神さまの子どもとして、毎日喜びをお与えください。今、苦しんでいる人たちをも、神さまがお助けください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。

十戒は二つに分けることができます。第一戒から第四戒には、神さまを愛するために何が求められているかが語られていました。そして第五戒から第十戒には、隣人、つまり周りの人たちを愛するにはどうすれば良いのかが語られています。

今までは、⑤父母を敬いなさい、⑥殺してはならない、⑦姦淫してはならない、⑧盗んではならない、と具体的なことを行ってはならないことが語られていましたが、第九戒では嘘をついてはならないことが教えられました。実際に行わなくても、言葉で他人を傷つけることも許されません。そして今日は最後の第十戒になります。

問80 第十戒は何ですか。

答 「隣人の家を欲してはならない」です。

問81 第十戒で、神さまは私たちに何を求めておられますか。

答 神さまは、私たちにすべて必要なものを与えてくださいます。むさぼりは、この世のものを神さまとする偶像礼拝です。神さまは、私たちが、他の人のものをねたまず、自分の持ち物に感謝し、満足し、人に幸せを願うことを求めておられます。

実際に行うこと、言葉で語ることだけではないのですね。「欲しいと思うこと」、つまり心の中で思うことも、同じ罪なんですよと神さまはお語りになります。

特に「むさぼりは、この世のものを神さまとする偶像礼拝です」と語っています。「むさぼり」という難しい言葉を使っていますが、「欲しい」と思うことですね。他人のものを欲しいと思うことは、それを偶像として拝むのと同じで偶像礼拝なんだと語ります。

十戒の最初で、三位一体（御父・御子・聖霊）の神さま以外を、神としてはならないことを学び、第二戒で偶像を神としてはならないことを学んできました。そして最後の第十戒で、神を求めると、ものを欲しいと思うことも、同じように偶像を拝んでいるのと同じだと語られています。

神さまは、私たちに必要なものをすべてお与えくださる方です。だから「求めなさい。そうすれば、与えられる」とお語りになります。主なる神さまは、私たちに生命を与え、そして私たちに必要なものはすべてお与えくださいます。だからこそ、神さまを信じて、またすべてを神さまに委ねて、お祈りすることが求められています。

お祈りします。

神さま、神さまは私たちに必要なものはすべてお与えくださることを約束してくださいました。だからこそ私たちも、与えられたものに感謝することができるようにしてください。そして本当に必要なものがあれば、神さまに求めて祈ることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。すでに繰り返し語ってきたことですが、神さまは私たちが十戒を完全に守ることができないことを知っておられます。

問82 あなたは、このような神さまの戒めを完全に守れますか。

答 いいえ、それどころか、毎日思いと言葉と行いによって神さまの戒めを破っています。私たちはイエスさまによって罪が赦されていますが、今も罪を犯してしまいます。ですから、いよいよイエスさまにより頼み、罪の赦しときよめを求めます。

実際に罪を犯さないようにしていたとしても、言葉において人を傷つけたり、心の中で嫌だなど思うことも罪であることを、第九戒「嘘をついてはいけない」、第十戒「人のものを欲しがってはならない」で確認してきました。

カテキズムは「私たちはイエスさまによって罪が赦されていますが、今も罪を犯してしまいます」と語ります。クリスチャンのことを「罪赦された罪人だ」と言われます。

実際に罪を犯し、警察に逮捕されるようなことがあれば、刑務所に入ることが求められます。そして決められた期間が終わるまで出ることができません。それが罪を償うことです。

しかし私たちクリスチャンは、神さまの御前に毎日罪を犯しています。罪の刑罰は死です。毎日十字架で死ぬことが求められます。しかし、私たちはもう十字架で苦しむことも、死を遂げて、地獄に落ちることもありません。私たちが負わなければならない十字架をイエスさまがすでに背負ってくださったからです。イエスさまは十字架で死を遂げられ、三日目の朝に甦られました。イエスさまを信じて、クリスチャンとなった私たちは、「昨日犯した罪も、今日犯した罪も、これから犯す罪も、すでにイエスさまの十字架によって償われたのですよ。だからあなたは神さまの子どもとして天国に行くことができますよ」と宣言してくださいませ。

だからこそ、私たちの罪を代わりに背負って十字架にお架かりくださったイエスさまに感謝して、イエスさまがお語りになる聖書の御言葉に聞いて、イエスさまに従って生きることが求められています。

お祈りします。

神さま、私たちは神さまの前で、毎日罪を犯してしまいます。ごめんなさい。それでも神さまはイエスさまを信じる私たちに、イエスさまの十字架によって、罪を赦してください、神さまの子どもとして、受け入れてくださっていますことに感謝します。

どうか、私たちが、毎日神さまの子どもとして、喜んで聖書で語られていることを受け入れ、神さまを信じて生きることができるようになってください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムでは、十戒について学んでいます。十戒は、「～ねばならない」と語られていることから、守らなければならないものと思ってしまう。しかし十戒は、神さまが奴隷であったイスラエルを救ってくださり、これからも神さまの子どもとして生きていくために、お与えくださいました。ですから、十戒には神さまの愛の言葉が詰まっています。すでに繰り返し語ってきたことですが、神さまは私たちが十戒を完全に守ることができないことを知っておられます。だからこそ、十戒を繰り返し確認することにより、私たちは自分の罪深さ、神さまがいなければ救いがなく、天国に入ることもできないことが示されます。

しかし十戒の役割は、私たちが罪人であることを気づけば良いものではありません。

問83 「十戒」は、罪を気づかせるためだけにあるのですか。

答 いいえ、「十戒」は、父なる神さまの愛の親心です。私たちは、救いの完成に向かって、祈りつつ、聖霊に助けられながら、光の子どもらしく、喜んで「十戒」を守って歩みます。

十戒の学びを続けてきましたが、神さまは私たちが愛してくださっていることを繰り返し語ってきました。ですから、あなたは罪を犯していますよと語られるだけではなく、どのようにすれば、神さまの子どもとして、ふさわしく生きることができるのかを、十戒においてお示ししてくださっています。

ですから、十戒では「～ねばならない」と語られ、「守らなければならない」ことと、大変だなと思ってしまうことが書かれているようですが、しかしそれは、十戒を守ることによって、私たちが罪の誘惑から守られ、滅びの道に行かなくてすむようにしてくださっています。

それだけではありません。「祈りつつ、聖霊に助けられながら」と書かれていますね。「自分で十戒を守らなければならない」と思うと、「大変だな」、「できるかな」と思ってしまうかもしれません。しかし、神さまはいつも一緒にいてくださり、助けてくださいます。だからこそ、神さまにお祈りして、神さまが助け、守ってくださることを信じて、私たちは、十戒を守ることで、神さまの子どもとしての歩みを続けて行けば良いのです。

このとき、神さまは、「あなたは神さまの子どもです。光の子です」と喜んでくださいます。

いやいやではなく、喜んで十戒を守っていただきたいなと思います。

お祈りします。

神さま、私たちは十戒を完全に守ることができません。行い・言葉・心の中で、破ってしまいます。でも神さまが、私たちが愛してくださり、イエスさまの十字架によって罪を赦し、神さまの子どもとしてくださっていますことに感謝します。

また、私たちが十戒に従って生きることによって、悪魔の誘惑や罪から守られることをお教えくださり、ありがとうございます。そして私たちが十戒を守ることができるように、おみちびきください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

カテキズムにおいては、十戒について学び続けてきました。神の子どもクリスチャンとして、どのように生きるのかということが教えられていました。神さまによって愛され、救われている者として、神さまを愛し、教会に来て、神さまを信じること、そして隣人、まわりの人たちを愛することが語られていました。

そして、今日からは、祈りについて学ぶこととなります。

問84 神さまが聖書を通して示された祈りの規準はどこにありますか。

答 イエスさまが祈りの手本として教えてくださった「主の祈り」の中にあります。

主の祈りは、先ほどもみんなでお祈りしましたし、毎週祈っていますので、「知ってるよ」というお友だちも多いかと思います。しかし、一つひとつ何を祈っているのか、考えたことがあるでしょうか？ 一つひとつのことは、イースターが終わった後、改めて学んで行くこととしますが、神さまにお祈りすることの大切さを、今日は確認します。

神さまは、みんなのことが大好きですし、いつも見守っていてくださっています。だからこそ、みんなが望んでいることを、神さまはすべて知っておられます。しかし、神さまは、みんながお祈りによって神さまにお頼みすることを喜んでくださいます。そして、その祈りを聞いてくださいます。

だからこそ私たちは、神さまが私たちの祈りをすべて聞いてくださることを確信して、お祈りすることを求めておられます。みんなはお友だちに「ありがとう」、「お願いします」というかと思いますが、神さまに対してもおなじように、そしていつでも「ありがとう」、「お願いします」とお祈りすることができるといいですね。

お祈りします。

神さま、神さまがいつも一緒にいてくださり、ありがとうございます。そして私たちがいつでも神さまにお祈りすることができ、ありがとうございます。

だからこそ、いつでも、神さまのことを忘れることなく、神さまを信じて、お祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

先週はイースター、イエスさまが十字架の死からよみがえってくださったことを、みんなでお喜びしました。本当に多くの人たちが集ってくださり、先生もうれしかったです。教会学校も卵さがしやクイズなどもあり、これからも楽しみが増えたかと思えます。

さて教会では、礼拝において必ず、聖書の御言葉を聞くと共に、お祈りをします。みんなも食事の前や寝る前にも祈りますか？ 苦しい時、助けて欲しい時などにも祈ることができますね。

今日からは、このお祈りについて、一緒に学んで行くこととします。カテキズムでは、このように語られています。

問85 それでは、祈りとは何ですか。

答 祈りとは、まことの神さまに私たちの心を向け、神さまとの交わりの中で神さまとお話することです。

復活されたイエスさまも、今は天に昇って行かれ、私たちは目で見ることができません。目に見えない神さまと交わることができるの？ お話することができるの？ と思われるかと思えます。

しかし、私たちは今、教会に来て、神さまを礼拝しています。神さまを礼拝すること、そして祈ることも同じなのですが、神さまが共にいてくださることを、私たちは確認しなければなりません。つまり、神さまは、父なる神さま、子なるイエス・キリスト、聖霊なる神さまが、三位一体の神さまです。

この聖霊なる神さまが、今も、私たちと一緒にいてくださり、天のおられるイエスさま、そして父なる神さまとの交わりを行ってくださいます。だからこそ神さまは、私たちのすべてのことを知っておられます。行ったことはもちろん、語った言葉、心の中で思っていることも、隠すことができません。そうであるならば、私たちがお祈りしたことも、神さまは、すべて聞き届けてくださいます。

だからこそ、私たちは、神さまを目で見ることができなくても、聖書の御言葉によって、神さまを礼拝することができ、そして、神さまに感謝し、願い求める祈りを行うことができます。

神さまは、みんなのことが大好きだからこそ、みんなが祈る時、その声を聞いてくださいます。だから、イエスさまは、このように語られます。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。

そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」。

お祈りいたします。

神さま、神さまはいつも私たちと一緒にいてくださり、私たちを見守っていてくださり、ありがとうございます。そして、私たちが祈る時、その声をいつもきいてくださり、聞き届けてくださることに感謝します。

だからこそ、私たちは、いつでも、神さまにお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

私たちは、神さまを礼拝するために教会に来ています。そして礼拝の中で、お祈りを行います。みんなも、食事の前や、寝る前にお祈りする人もいるかと思います。困っている時、苦しい時に、「助けて」と祈る人もいると思います。

神さまは、みんなのことが大好きです。だからこそ、いつでも祈りもきいてくださいます。でも、「わたしの祈りなんか、神さまは聞いてくださるのだろうか？」と思うことはありませんか？ カテキズムでは、次のように答えています。

問86 私たちは罪人なのに、神さまとの交わり、神さまとお話しすることができるのですか。

答 はい、できます。私たちは、イエスさまによって罪を赦され、神さまの子どもとされ、神さまと交わり、お話しできるようにされています。ですから、私たちはイエスさまのお名前によって、子どもらしく素直になんでもお祈りします。

神さまはみんなのことが大好きです。だからこそ、わたしたちの罪を赦すために、イエスさまが、私たちが死ぬ代わりに十字架にお架かりくださいました。だからこそ、教会に来て、神さまを礼拝し、神さまにお祈りする私たちの罪は、イエスさまによって、もう、赦されています。だからこそ、私たちは神さまにお祈りすることができます。

そして、カテキズムでは「神さまとお話する」と語っていますね。「お祈り」は、私たちが一方的に、神さまにお願いするだけではありません。お話だからこそ、私たちが語りかける時、神さまも応えてくださいます。

「神さまの声を聞いたことがない」と言われるでしょう。直接、神さま・イエスさまの声を、私たちは聞くことができません。しかし、神さまはいつも、みんなと一緒にいてくださいます。見守っていてくださいます。だからこそ、時に、御言葉である聖書の言葉をとおして、そしてある時には、人から言葉をかけられることにおいて、あるいは別の形で、祈りの答えが、神さまから与えられます。だからこそ、祈りは、誰にお話ししているのか分からない、あるいは一方通行だということはありません。

神さまは、いつでも、みんなの祈りを聞いてくださり、そしてその祈りに応えてくださいます。だからこそ、神さまを信じて、いつでも神さまにお祈りすることができるようになっていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、今日も教会にきて、祈りについて学ぶことができ、ありがとうございます。そしてみんなが、神さまが答えをくださることを信じて、いつでも神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

私たちは、教会にきて、神さまを礼拝し、神さまからの御言葉を聞き、そしてお祈りします。しかし、お祈りすることは、なにもクリスチャンじゃなくてもすることができます。今日は、クリスチャンの祈りと、クリスチャン以外の人が行う祈りの違いについて、考えて行きたいと思います。

問87 この世の人たちもお祈りをしますが、神さまの子どものお祈りと、どちらがうのですか。

答 この世の人たちのお祈りは、神さまのことではなく、自分の益のためだけの願いごとです。神さまの子どもである私たちは、神さまをあがめ、神さまの御心を求めて祈ります。ですから、聖書の言葉に耳を傾けつつ、祈ることが大切です。

この世の人たち=教会に来ていないノンクリスチャンの人たちは、生きて働く主なる神を知りません。そのため、お祈りするときは、まず自分のことを祈り求めます。まったく自分のことだけではなく、家族のこと、仲間のこと、今であればウクライナで戦争の中、苦しんでいる人のために祈る人もいます。

しかし、ノンクリスチャンの人たちは誰に祈っているのでしょうか？ 主なる神さまを信じているわけでもありません。彼らにとっては、神社のカミであっても、お寺でも、祈りを聞いてくれるのであれば、カミは誰でも良いのです。

しかし、生きて働く主なる神さま以外に、神はいません。人が作ったものを神として崇めてみても、その神に祈りを聞くことはできません。

だから、彼らの多くも思っています。「祈りが聞かれればラッキー」と。

しかし、生きて働いておられる神さまがおられ、いつも私たちと一緒にいてくださり、私たちを見守っていてくださっていることを知っています。そして、このようにお語りください。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。

探しなさい。そうすれば、見つかる。

門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者は開かれる」。

(ルカ11:9~10)

神さまは、私たちの祈りを聞き、それを成し遂げる力を持っておられます。このことを私たちは知っているからこそ、神さまにただ、自分のことを祈るのではなく、まず最初に、神さまを褒め称え、救いに感謝して、そして祈り求めるのです。

だからこそ私たちは、お祈りする時には、神さまの御言葉である聖書に聞いて、それから神さまにお祈りすることが大切です。

お祈りします。

神さま、今日も私たちが、教会にきて、神さまを礼拝し、神さまにお祈りすることができます、ありがとうございます。私たちは、主なる神さまが、いつも私たちと一緒にいてくださり、見守り、助けてくださることを信じます。だからこそ、私たちも、いつでも、神さまを信じて、お祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

主なる神さまは、みんなのことが大好きだからこそ、救いへと導いてくださり、聖霊なる神さまにより、いつでも一緒にいてくださいます。だからこそ私たちは、いつでも、主なる神さまにお祈りすることが許されています。そして何でもお祈りすることができます。

そしてさらに、イエスさまは、どのようにお祈りすればよいのか、そのお手本をお示し下さいました。それが主の祈りです。先ほども、みんなでお祈りしました。そして主の祈りがどのような祈りであるか、カテキズムは語っています。

問88 イエスさまが祈りの手本として教えてくださった「主の祈り」の内容は何ですか。

答 それは、神さまへの賛美、感謝、私たちの罪の赦し、願いごと、他の人たちのためのとりなしなどを含んでいます。

カテキズムを確認すると、お祈りにはいろんな種類があることが分かります。私たちの願いごとを神さまにするだけではありません。

最初に語られているのが、神さまへの賛美と感謝です。神さまが私たちに命を与え、毎日の食べ物をお与えくださいます。罪を赦し、救ってくださいます。だからこそ、最初に神さまを褒め称え、感謝します。

続けて、罪の赦しを祈ります。イエスさまが十字架ですでに私たちに代わって、罪を償ってくださいました。だからこそイエスさまを神さまと信じる私たちは、イエスさまの十字架によってすでに罪が赦されています。だからこそ、先週一週間も、私たちは神さまから離れ、行い・言葉・心の中で神さまに罪を犯したため、その罪の赦しを求めなければなりません。

その上で、自分自身の願いごとを祈ります。神さまは、何でも願うことを許してくださいます。

それだけではなく、他の人たち、特に苦しんでいる人たち・悲しんでいる人たちを覚えなければなりません。まだ、コロナにあって、病院の方々や多くの人たちが苦しんでいます。ウクライナでは戦争が行われ、死ぬかも知れないとの恐怖の中にいる人たちもいます。そうした人たちのことを覚えてお祈りすることが大切です。このことを「とりなし」と語ります。

主の祈りの一つひとつのことは、来週以降に学んで行きますが、お祈りには、

- ①神さまへの賛美
- ②感謝
- ③私たちの罪の赦し
- ④願いごと
- ⑤他の人たちのためのとりなし

の5つあることを、お覚え頂きたいと思います。そして、主の祈りを祈る時、そして私たちが神さまに祈る時、こうしたことを思い出して、祈っていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、今日も、私たちが教会に来て、神さまを礼拝することができ、ありがとうございます。私たちはお祈りするとき、どうしても自分の願いごとばかり祈ってしまいます。しかし、お祈りには、①神さまへの賛美、②感謝、③私たちの罪の赦し、④願いごと、⑤他の人たちのためのとりなし、があることを知りました。

これから私たちがお祈りするとき、この5つのことを覚えてお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

私たちは、毎日、神さまにお祈りすることができます。そしてどのようにお祈りすれば良いのか、イエスさまは、祈りの見本として、主の祈りをお教えくださいました。先週、祈りには5つの種類があることを確認しました。

- ①神さまへの賛美
- ②感謝
- ③私たちの罪の赦し
- ④願いごと
- ⑤他の人たちのためのとりなし

これからは、これらのことを一つひとつ学んで行くことになりますが、最初に、神さまへの呼びかけです。

問89 「天にまします我らの父よ」という「主の祈り」の呼びかけは、私たちに何を教えますか。

答 私たちは、神さまの子どもです。ですから、「私たちの天のお父さま」と呼びかけて祈ります。しかも、独りぼっちではなく、神さまの家族のひとりとして、神さまの子どもたちといっしょに心を合わせて祈ります。

神さまは、神さまを信じる人たち、教会に来る人たちを、神さまの子どもとしてくださいます。そして、神さまは子どもである私たちを愛してくださっています。大好きです。だからこそ神さまは、私たちが神さまにお祈りするとき、「アッバ父よ、お父ちゃん」と親しく呼びかけることをゆるしてくださいます。

そして、私たちが神さまに呼びかけるということは、神さまは私たちのすべてをご存じですから、何でも神さまにお祈りすることができます。だからこそ、イエスさまはお語りになります。

あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。  
魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか（マタイ7:9～10）。

神さまは、私たちがパンを欲しいときに、パンをくださいます。魚を欲しいときに魚をお与えくださいます。疑うことなく、信じて、神さまにお祈りするとき、神さまは、祈りを聞き届けてくださいます。

そしてカテキズムはもう一つのことを語ります。「独りぼっちではなく、神さまの家族のひとりとして、神さまの子どもたちといっしょに心を合わせて祈ります」。みんなは、一人で祈っているつもりでいるかも知れません。でも、教会に来ている人たちは、みんな、神さまの家族です。だからこそ、一緒になって、みんなでお祈りすることによって、お祈りはさらに神さまの聞かれます。

神戸にいた川瀬先生が、宣教師としてハンガリーに行きました。ウクライナで戦争が行われていますが、隣の国です。ウクライナから逃げてきた人たちも多くいる国です。だから、大変です。だからこそ、私たちも、そして他の教会の人たちも、一緒になって、川瀬先生とご家族のことをお祈りしています。先生のご家族は先週、ハンガリーに入られました。これからの先生のお働きのために、みんなもお祈りしていただきたいと思います。

お祈りします。

天の神さま、私たちが神さまに、親しくお祈りすることができ、ありがとうございます。これからも私たちが神さまを信じて、お祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

お祈りについて学んでいます。神さまは、聖霊においていつも私たちと一緒にいてくださいますから、何でもお祈りするようにお語りくださいます。そして、祈るときには、「お父さん」、「アッパ」と呼ぶように親しくお祈りしてよいとお語りくださっています。

では、私たちは神さまに何をお祈りすれば良いのか、ということ、主の祈りで、イエスさまはお教えるくださっています。最初の祈りは、「願わくば、御名をあがめさせたまえ」です。

最初の「願わくば」とは、昔の言葉で語られていますが、「私たちがお願いすることができるように」ということで、私たちが神さまを崇めることができるようにと、お願いするのりです。

続けて、カテキズムから学ぶこととします。

問90 「み名をあがめさせたまえ」では、何を祈り求めるのですか。

答 私たちの生活のすべてを通して神さまの栄光があらわされ、すべての人が神さまのお名前をあがめ、ほめたたえるようになることを祈り求めます。

「御名」、「御言葉」、「御業」と、聖書では「御」という言葉が付けられることがあります。これらは「神さまの」という意味です。ですから「御名」と語れば、「神さまの名前」ということになります。

「あがめさせたまえ」、「崇める」とは、崇敬する、尊敬する、敬うことです。

「神さまのお名前を敬う」とは、なんだか変な日本語です。しかし、「お名前」とは、その人のことを指します。先生は、辻幸宏です。お名前は、大切なものです。ですから、神さまを敬うことを、「御名をあがめさせたまえ」と祈ります。

私たちは、どうしても自分勝手ですから、神なんか知らない。自分が大切だと思ってしまいます。だからこそ、私たちに命を与え、毎日の食べ物を与え、必要を満たしていただき、救いをお与えくださる神さまを覚えて、神さまに感謝し、崇める祈りを行うことが求められています。

お祈りしましょう。

神さま、私たちは、どうしても神さまからの恵みを忘れ、自分のことばかり思っています。神さまが、私たちに命を与え、毎日の必要なものをお与えくださり、救いをお与えくださることを覚え、感謝することができるように、神さまを褒め称えることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

先週は、ペンテコステ（聖霊降臨日）ということで、教会の誕生日を覚えて、お話をききましたが、今日はカテキズムの話に戻ります。

お祈りの見本として、イエスさまは主の祈りをお教えてくださいました。最初は、「御名をあげめさせたまえ」神さまの名前を讃美すること、つまり、神さまを信じ、神さまを礼拝することができるように祈ることでした。

そして2番目の祈りが「御国を来たせたまえ」です。カテキズムを確認します。

問91 「み国をきたせたまえ」では、何を祈り求めるのですか。

答 神さまの家族としての教会と私たち一人一人が、御言葉と聖霊によって支配されるように祈り求めます。また、そのご支配が、福音を宣べ伝えることと愛の働きを通して広げられ、イエスさまが再び来られる時に、完成されるように祈ります。

「御名」「御国」と「御」が付くのは、「神さま」ということでした。つまり、「御国」とは、「神さまの国」ということです。神さまを信じる私たちは、神さまの子どもとなり、神の国、天国に行くことが約束されていますが、「御国」とは、天国のことを言っていると考えてもよいでしょう。

しかしそれだけではありません。カテキズムでは、教会と私たち一人ひとりが、「御言葉と聖霊によって支配されるように」と語っています。つまり、私たちは今、まだ天国にはいませんが、神さまを礼拝することによって聖書の御言葉を聞き、聖霊に満たされています。つまり、「御国が来ますように」と私たちが祈るとき、「私たち一人ひとりが、神さまを信じて、神さまの支配の中、神さまの守りの中に置かれますように」ということです。

私たちは、神さまを信じることによって、神さまは聖霊をとおして、いつでも私たちと一緒にいてくださいます。そして、神さまは私たちを守ってくださいます。私たちがお祈りしたとき、神さまはすべてを聞いてくださり、祈りに応えてくださいます。

だからこそ、私たちは、神さまを信じるとき、神さまの守りの中、神さまの支配の中にいることとなります。そのようになりますようにと、お祈りします。

そしてカテキズムは後半で「また、そのご支配が、福音を宣べ伝えることと愛の働きを通して広げられ、イエスさまが再び来られる時に、完成されるように祈ります」と語ります。最後の「イエスさまが再び来られる時に、完成されるように」とは、イエスさまが再び来られる時に、天国が完成して、神さまを信じる私たちが天国に入ることができます。その日を私たちは待ち望んでいます。

そしてそのために、私たちは私たち自身の信仰が守られるように求めるだけではなくて、さらに神さまを信じる人が、教会に加えられるように祈ることが求められています。そして私たちは、神さまを証して、伝道することが求められています。

お祈りします。 イエスさま、今日も私たちが教会に来て、メッセージを聞き、今日も神さまにお祈りすることができ、ありがとうございます。どうか、いつでも神さまと一緒にいてくださり、私たちを守ってください。そして、私たちが天国へ行き、神さまの祝福に入れられますように、おみちびきください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

カテキズムでは、お祈りについて学んでいます。

最初の「御名をあげさせたまえ」で、主なる神さまのみを神さまとして、礼拝しなさいよ、他には神はいないので、ということを感じる祈りでした。

第二の、「御国をきたらせたまえ」では、神さまの国、つまり天国が与えられ、神さまを信じる私たちが天国に加えられるように、また、今、神さまの支配が私たちに示され、私たちが守られるように、神さまに委ねて祈ることができるようにということでした。

そして第三の祈りが「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」です。ここをまず、カテキズムから確認します。

問92 「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」では、何を祈り求めるのですか。

答 天においては神さまの御心が完全に支配しているように、地においても、すべてのことにおいて神さまの御心が支配するように祈り求めます。また、神さまの子どもである私たちは、御心に聞き従い、喜んで神さまのお役に立てるように祈ります。

ちょうど、「御国をきたらせたまえ」で祈っていたことの続きですね。後半において確認してきたことのように。しかしここでは、神さまの国、神の力が、聖霊をとおして私たちに示されていることにより、私たちが神さまの民として、神さまを証しして生きることができるようにということを祈るのです。

では私たちは、どのようにすれば、神さまに喜んでいただけるのでしょうか？ 神さまを信じること、礼拝に来て、メッセージを聞くこともそうです。それから、神さまが語ること、十戒に従って生きること、神さまがいることをお友だちに伝えること、こうしたことすべてですね。

それだけではありません。特にクリスチャンが、どんなことでも良いので、リーダーになり、リーダーとして働くことも、神さまに喜んでいただくこととなります。

ですから、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈る時、神さまが、私たちに救いをお与えくださるだけではなく、神さまが私たちを守り、私たちが神さまを証しすることができるように祈ることです。

お祈りしましょう

神さま、神さまが私たちをお覚えくださり、救いへと導いてくださっていることに感謝します。そして、これからも私たちが神さまを覚えて、神さまを証ししつつ、神さまの民であることを喜ぶことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イエスさまは、私たちが神さまを信じて、神さまに祈り求めるために「主の祈り」をお教えくださいました。いままで、神さまのこと、天国のことと、私たちの信仰に関することを祈り求めることでしたが、私たちの毎日の生活においても、神さまがすべてを御支配くださっていることを、前回確認してきました。

だからこそ、私たちは、神さまに対して、今、必要なものをお願いすることが赦されています。カテキズムでは、次のように語られています。

問93 「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」では、何を祈り求めますか。

答 神さまは、すべての良いものの泉です。神さまの子どもたちに必要なすべてのものを与えて、楽しむことができるように祝福してくださいます。ですから、私たちは、この恵みの神さまに日々より頼んで歩むことができるように祈り求めます。

「日用の糧」とは、「毎日の食べ物」のことですね。みんなは、毎日、食べ物があることが当たり前になっています。しかし、今日、どのようにして食べ物を得ようかと苦しんでいる人たちがいることを忘れてはなりません。そういう人たちの祈りであり、食べることがある私たちであれば、「今日も、食べるものが与えられ、ありがとうございます」という祈りになるのではないのでしょうか。

さらにイエスさまは、次のように語られています。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」(マタイ7:7~11)。

食べることだけではなく、私たちにとって必要なものを、神さまはすべてご存じです。だからこそ、率直に、「お願いします」と祈ることが許されています。そして、神さまは、私たちのこと、そしてみんなのことが大好きで、いつでも見守ってくださいますので、私たちの祈りを聞いてくださいます。

だからこそ、「こんなこと祈っちゃダメかな？」と思うのではなく、どんなことでも、神さまにお祈りして頂きたいと思います。本当に必要なものを、神さまはご存じですから、祈りに応えてくださいます。

お祈りします。

神さま、神さまがいつも私たちと一緒にいてくださるからこそ、私たちに必要なものをすべて知っていてくださり、ありがとうございます。そして私たちが祈り求める時、神さまは、それを聞き届けてくださることに感謝します。

だからこそ、安心して、そしてすべてを神さまに委ねてお祈りすることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

先週は、違う先生が教えてくださいました。どうだったでしょうか？ 改めて今日は、カテキズムの学びを行います。イエスさまがお教えくださった主の祈りも5つめになります。4番目では、毎日の食べ物も、神さまがすべてお与えくださることを願い、感謝する祈りでした。神さまは、私たちのすべてを知っておられ、そして必要を満たしてください。必要なものであれば、何でも神さまに願うことにより、祈りは聞かれます。「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる」と語られています。

そしてイエスさまは、5つめの祈りにおいて、次のようにお語りになります。

問94 「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ」では、何を祈り求めるのですか。

答 私たちが、イエスさまの十字架の恵みによって罪が赦されていることをいつも思い起こし、他の人たちの罪をも赦すことができるようにと祈り求めます。さらに自分自身の罪をますます深く悲しみ、罪の赦しを祈り求めます。

イエスさまを神さまと信じている私たちは、救われています。「救われる」というとき、みんなが行った悪いことも、みんな神さまはご存じですが、赦してくださるということです。この祈りでは、このようにイエスさまがみんなの罪を赦したように、他の人たちの罪を赦すことができるように、と祈ります。

先生もそうですが、どうしても嫌なことをされると、赦すことができず、怒ってしまいます。できれば、「仕返しをおこなってやろう」と考えることもあるかと思います。

しかしイエスさまは、「みんなの罪がもう赦されているのだから、みんなも、他の人たちの罪を赦しなさい。仲直りしなさい」とお語りになります。「こんなことできない」と思うかもしれません。

イエスさまは、みんなが悪いことをした人をなかなか赦すことができないことを知っておられます。それでも、そうするように求めておられます。こうすることによって、イエスさまの本当の気持ち、本当の愛を初めて理解し、信じる気持ちが強くなっていくのだと思います。

お祈りします。

神さま、私たちは、人が悪いことをしたとき、なかなか赦すことができません。しかし、イエスさまは、人の罪を赦すように求めておられます。だからこそ、私たちがイエスさまによって罪が赦されたことを感謝して、私たちも人の罪を赦すことができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イエスさまが弟子たちに、そして私たちにお教えくださった祈りである、主の祈りについて学んできています。6つの祈りがあることをかたりましたが、今日が最後の第6番目の祈りとなります。

**問95 「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」では、何を祈り求めるのですか。**

**答** 今も弱さをもっている私たちは、神さまのあわれみがなければ、一瞬でも神さまの子どもとしての祝福に生きることはできません。ですから罪と悪魔の支配から救い出され、聖霊の力によって勝利を得ることができるよう祈り求めます。

私たちは、毎日の生活の中で、苦しいことやどうすれば良いか分からないこともなどもあります。こうした苦しみなども、神さまはみんな知っておられます。だからこそ、私たちは、「苦しいから助けてください」と祈ることができます。

しかしそれだけではないのですね。そもそも「こうした苦しみとしての試みに遭うことなく、守ってください」と祈ることができるのですね。それがこの祈りです。

つまり、こうした苦しみやどうすれば良いのか分からないとき、私たちは自分の力で解決しようと考え、また行動したりしますが、自分では解決できないこともいっぱいあります。だからこそ、自分で解決しようとするのではなく、すべてのことを知っておられ、また解決する力を持っておられる神さまにお祈りして、助けを求めて良いのですよ、とイエスさまはお語りになります。

とくにカテキズムでは「罪と悪魔の支配から救い出され、聖霊の力によって勝利を得ることができるよう祈り求めます」と語るように、主なる神さまは、すべてを解決するだけの力を持っておられます。だからこそ、「どうせ無理だ」とあきらめるのではなく、「神さまならば、助けてくださる。神さまなら、解決してくださる」と確信をもって、お祈りすることが大切です。

またコロナが増えてきています。今日、そのためにお休みになられている方々もいますが、苦しんでいる人が神さまによって癒やされ、家族のお世話をしている方々が守られるように、お祈りしなければなりません。

お祈りしましょう

神さま、神さまは私たちを守る力を持っておられます。だからこそ、私たちが苦しむことがないように、いつもお守りください。

特に今、コロナの中、苦しんでいる人たちがいます。そうした人たちが神さまによって癒やされ、また守られますように、お導きください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イエスさまがお教えてくださいました。6つの祈りがありましたが、最後に「国と力と栄えとは、限りなく、なんじのものなればなり」という言葉が付け加えられています。難しいことばです。「国」は分かるかな？ 日本の国、アメリカの国、ロシアの国、ウクライナの国、今でも戦争が続けられています。昔から、繰り返し戦争が行われてきました。国は大きい方が良い。自分のものだと考える王や大統領が多くいるのですね。「力」も、自分の力が大きいことを誇ろうとすることです。「栄え」とは、贅沢な暮らし、楽な暮らしを行えることでしょうか。

このような国・力・栄えが、「限りなく」とは「いつまでも」ですね。「なんじのものなればなり」これまた難しいですね。「なんじ」とは昔の日本語ですが、「あなた」つまり「神さま」ということです。国と力と栄えとが、いつまでも、神さまのものでありますように、と祈るのです。

つまり、人間が力を持っているように思われますが、実は、いつでもこうした国・力・栄えは、神さまが持つておられるものであり、それが私たちに与えられているのですよということをお祈りしています。

このことを理解して、今日のカテキズムを確認します。

問96 「国とちからと栄えとは、限りなく、なんじのものなればなり」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 祈りが確かに聞かれる理由は、いつも良いものだけを与えてくださる恵みの神さまにこそあります。ですから、神さまの子どもである私たちは、喜びと感謝をもって神さまの栄光をほめたたえるのです。

神さまがすべてを支配しておられ、そして私たちにお与えくださいます。だからこそ、私たちは、何でも神さまにお祈りすることができるのです。そして、最後に、すべてを支配しておられる神さまに対して、栄光を誉め称えること、讃美することが求められています。

神さまの姿を見ることができず、神さまがすべてを支配している力も感じられないため、「神などいない」、「神に力はない」と語る人たちが多くいます。しかし、神さまは、いつでも私たちと一緒にいてくださいます。そして、私たちを見守ってくださっています。

だからこそ、どんなときにも、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるのです。喜びをもって、救いの感謝をもって、毎日お祈りしましょう。

お祈りします。

神さま、神さまがいつも私たちと一緒にいてくださり、見守っていてくださり、ありがとうございます。だからこそ、私たちは、苦しいときでも、どうしたら良いか分からない時にも、神さまが力をもって解決してくださることを信じて、お祈りすることができます。ありがとうございます。

どうか、私たちが、いつでも神さまと一緒にいることを忘れることなく、お祈りすることができますようにお守りください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

1年半かかり、子どもと親のカテキズムより、学び続けてきましたが、今日は、最後となります。そして主の祈りの最後でもあります。

私たちは、神さまにお祈りした時、最後に「アーメン」と語ります。このことを今日は学びます。「アーメン」と語ると、祈りが終わるので、祈りが終わる合図の言葉と思っているかも知れません。たしかし、「アーメン」で祈りが終わるので、そのとおりです。

しかし、「アーメン」という言葉には、ちゃんと意味があります。カテキズムにおいて確認しましょう。

問97 「アーメン」とは、どういう意味ですか。

答 「アーメン」とは「真実です」という意味です。私たちは、神さまが私たちの祈りをイエスさまの真実によって受けとめて、確かに聞き入れてくださることを信頼して、「アーメン」と唱えます。

「アーメン」とは「真実です」という意味です。と語られています。つまり、一人の人が祈りを献げると、祈った人も、そしてそれを一緒に聞いていた人も、この祈りが神さまによって聞き届けられ、実現することを信じて、神さまに委ねつつ、「アーメン、真実にそのようになりますように」という思いで、「アーメン」と唱えるのです。

そうしてもう一つ、「アーメン」と語るとき、お祈りしたことを、神さまがちゃんと聞いてくださり、聞き入れてくださることを信頼していることをも表しています。

だからこそ、私たちがお祈りしたとき、「アーメン」と語ることにより、目には見えなけれども、神さまと一緒にいてくださり、このお祈りをも一緒に聞いてくださり、成し遂げてくださることを信じてお祈りすることができるのです。

今日で、カテキズムの学びを終えます。私たちが信仰生活を続けていくときに、大切なことが語られていました。三位一体の神さまを信じること、そして罪から離れ、救いをお与えくださった神さまに従うために十戒が与えられていること、そして信仰生活を続けるために、神さまを礼拝し、御言葉の説教、洗礼と聖餐式の礼典、お祈りすることが大切ですと語られていました。

お祈りします。

神さま、神さまが私たち一人ひとりを教会へとお招きくださり、神さまを信じる信仰をお与えくださり、ありがとうございます。そして私たちに必要なことを、聖書をとおして、そしてカテキズムを通してお教えくださり、ありがとうございます。

そしてお祈りするときには、いつでも神さまと一緒にいてくださり、神さまが聞き届けてくださることを信じて、「アーメン」と語ることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン